

## ごあいさつ

最近、「美術館は生き残れるか」というテーマでシンポジウムがひらかれるという報せをある文化団体から受取った。また、地方自治体の美術館で、民間企業やNPOに運営を委ねる「指定管理者制度」を導入する館も出てきたという。

これらの動きは、いろいろな公的組織の独立行政法人化とあいまって、文化芸術の創造を助け普及を促進するシステムに大きな変化が起りはじめたことを示している。

そうしたなかにあって、今までに文化助成財団としての役割を果し18年を迎えた私たちセゾン文化財団の果すべき役割はどのようなものでなければならないのか。

勿論、今まで行ってきた助成活動を継続するばかりでなく精度 を高め充実したものにしていかなければならないが、一方で変化に 対応する用意をする必要があるのではないか。そしてそれは変化か ら身を守る姿勢ではなく、変化をむしろ発展の契機と考える視点に 立ってのことであることが望ましい。

そのためには今私たちに何が求められているかを知ることが大切 だろう。国や公的機関も昔に較べれば本気で芸術文化を助ける仕 事に力を入れるようになった。それは大変心強いことだ。

かつての軍事力を背景にした外交、昨今の経済力を背景にした 外交ではなく、文化の力を基本にした外交こそ、本来の平和外交だ、 という主張も正しいのではないか。

そうした時代の動きのなかにあって私たちの財団はその基礎を固め多彩なものにするために何をしなければならないか。

この問題意識は表現を変えれば、国や公共機関と私たち民間の財団の役割分担と協業関係を今後どう組むかということでもある。活動の地理的領域としては国内と共に諸外国がある。いくつかの、軽率さと無恥からくる政治家の失敗もあって、わが国はアジアの近隣諸国から孤立しているが、よく考えるとその背後にお互いの文化についての無理解があるようだ。その欠陥の一部は私たち財団がやれることかもしれない。一方に、グローバリゼーションと呼ばれる単一市場化の流れがあり、この流れは文化というものに理解のない資本の手にかかるとその国、その地域の固有性を否定する行動になりかねず、それらが国際摩擦の原因になりかねない。

こうしたことは私たちの守備範囲ではないとしても、その背後に文 化芸術の重要性についての欠落があるのではないか。

このように考えてくると、私たちがしなければならないことは大変 多く、その種類は多様で範囲も拡がるばかりとの感を否定できない。 しかし私たちの力は限られている。そのなかから何に重点を置き、ど こに軸足を置いて仕事をしていくべきか。

理事、評議員の皆様をはじめ、今まで私たちの活動をサポートして下さった企業、識者の方々に、今までの感謝と共に今後の御指導をお願いする次第です。

2005年8月

財団法人セゾン文化財団 理事長 堤 清二

## **Preface**

Recently, I learned from a Japanese cultural institution that a symposium on the theme "Can Art Museums Survive?" was going to be held. Meanwhile, there are some art museums among those operated by local governments that have started to adopt the Designated Management System, which entrusts the management of such museums to private corporations or non-profit organizations.

These developments — combined with implementation of the Independent Administrative Institution System by various Japanese public institutions — tell us that the systems established to enhance the creation of culture and arts in Japan are undergoing an enormous change.

What kind of role should the Saison Foundation, a cultural grant-making foundation that is now in its eighteenth year, play under such circumstances then?

While it is evident that we need not only to continue our grant-making activities but also to keep on improving them, perhaps it is necessary for us to prepare ourselves so that we may keep up with the changes as well — not from a perspective to protect ourselves from the changes, but rather from one to consider such changes as opportunities for further progress.

In order to do so, it is important that we know what is required from our foundation at this moment when national and other public institutions are more seriously involved in supporting the arts and culture than in the past, which is a situation that is extremely encouraging.

Moreover, the current discussion that diplomacy based on cultural power — not the kind backed by military power or, as until recently, by economic power — is the only and essential kind of peaceful diplomacy, also sounds true.

What can we do then to make the basis of our organization much firmer and dynamic within the recent changes?

This kind of awareness of the issues leads to the question on how roles should be divided and partnerships be formed between national and other public institutions and private foundations such as ours. We also need to keep in mind that the geographical spheres of our activities are both domestic and international. Due to the errors made by Japanese politicians from their thoughtlessness and shamelessness, our country is isolated from our neighbors in Asia; looking into the circumstances a bit farther, however, it is possible to say that the lack of understanding of each other's culture lies in the background of this problem. Perhaps what our foundation can do is to make up for part of this loss. Additionally, there is the flow of assimilation of the markets called globalization, which, in the hands of businesses and corporations indifferent to culture, can turn out to be a flow that denies the uniqueness of a nation or a region and thus become a cause of friction among nations.

While such issues may be out of range of our foundation's activities, nonetheless it cannot be ignored as they stem from the lack of significance of culture and arts.

By thinking in this way, it is clear that the number of problems we need to tackle are enormous and vary so much in type that it gives us the impression that the scale we need to cover keeps on expanding without an end. Yet our powers are limited, and, consequently, we need to choose what we should give priority to and where to position our axis.

We would like to thank our directors and trustees along with the corporations and experts who have offered their kind support to our activities up till now, and look forward to your continuing and increasing support to our foundation.

August 2005

Seiji Tsutsumi President The Saison Foundation

## 2004年度事業概要

## 助成事業

## I. 国内プログラム

#### 1. 現代演劇・舞踊助成――創造環境整備

#### ワークショップ、会議、シンポジウム等

演劇・舞踊界の人材育成、システム改善、情報交流など芸術創造を支える環境の整備を目的とした助成プログラム。ワークショップ、会議、シンポジウム等の企画に対し、企画経費の一部を助成(2004年度実績:30万円~100万円)し、希望者には会場として森下スタジオを提供する(スタジオ提供のみの場合あり)。原則として同一テーマ/企画の継続助成は3年間を限度とする。現代演劇・舞踊界が現在抱えている問題点を明らかにし、その解決方法を具体的に提案する次の事業を重視する:

- 演出家、俳優、振付家、ダンサー、制作者、技術スタッフ等の技術向上を目的とした経験者対象の人材育成プログラム
- 劇場等による人材発掘・育成企画
- ●芸術支援を巡る議論が活発化することを目的とした政策提言や、 その基礎となるべき系統だった調査・研究
- 情報交流の場の提供、情報公開を推進するシステムの整備などを 目的とした会議、シンポジウムなど

#### アーツマネジメント留学・研修

国際的視野を持つアーツマネジャーの養成を目的とした海外への 留学・研修に対し、100万円を上限として留学資金の一部を助成す る。対象は下記のすべての条件を満たしている者とする。

- 演劇・舞踊関連の芸術経営/運営の専門家として3年以上の職歴があること
- ●海外の専門教育機関への留学、あるいは劇場・芸術団体への3カ 月以上の研修が内定していること
- ●帰国後に留学の成果を活かし、国内の演劇・舞踊の振興に寄与する意欲と長期的展望を有すること

#### 個人研修

異文化体験を目的とした個人研修に対し、100万円を上限に渡航 費用の一部に対して助成金を交付。対象は日本を拠点に活動する 演出、振付、劇作、批評、プロデュースの専門家として3年以上の 活動歴を有し、1ヶ月以上の海外渡航を希望する個人。

### 2. 現代演劇・舞踊助成――芸術創造

#### 芸術創造活動 |

演劇界・舞踊界での活躍が期待される若手の芸術家/芸術団体に対し、経常費を含む年間の活動経費全般を対象に、その一部に対して助成金を交付(2004年度実績:300万円/件)。および希望者には公演稽古、ワークショップ開催の場として森下スタジオを提供。原則3年間にわたって助成を行うが、継続の可否に関しては毎年見直す。対象は下記すべての条件を満たしている個人または団体とする。ただし、個人の場合は、将来団体の設立を目標としていることを前提とし、プロデュース団体の場合は中心となる芸術家(演出家、脚本家、振付家)が固定していることを条件とする。

- 申請時点で過去3回以上の公演実績がある
- 活動歴が15年未満
- 2003年度の支出規模が400万円以上である

### 芸術創造活動 ||

「芸術創造活動 I」の助成期間を終了した団体を申請対象者とする特別な継続助成プログラム。経常費を含む年間の活動費全般を対象に、その一部に対して助成金を交付(2004年度実績:300万円/件)。および希望者には公演稽古、ワークショップ開催の場として森下スタジオを提供。原則3年間にわたって助成を行うが、継続の可否に関しては毎年見直す。なお、本プログラムは2001年度の時点で〈芸術創造活動 I〉の助成を受けていた団体の申請をもって終了する。

#### 若手奨励助成

〈芸術創造活動 I〉に申請した一次選考通過者の中から今後の活動が注目される若手に対し奨励金を付与する。

\* \* \*

#### 特別助成【非公募】

国内における現代演劇・舞踊以外の芸術・文化分野の活動を支援。

## Ⅱ. 国際交流プログラム

### 1. 知的交流

#### 現代演劇・舞踊助成——知的交流活動

日本の現代演劇・舞踊芸術に関する会議・シンポジウムの開催、翻訳出版、上演を目的とする翻訳などを通した日本文化の紹介に対する助成プログラム。対象者には企画経費の一部を助成(2004年度実績:60万円~100万円)し、希望者には会議等の会場として森下スタジオを提供。

#### 翻訳出版助成【非公募】

日本の社会科学・人文科学や文学に関する文献を海外に継続的に紹介する活動および関連事業に対して資金援助する。

### 2. 芸術交流

#### 現代演劇・舞踊助成 芸術交流活動 1: プロジェクト支援

演劇・舞踊芸術の国際交流を通した創造活動の活性化、ならびに日本の舞台芸術の国際化を目的とした、国際共同作業および公演、あるいはその過程で行われるワークショップ等に対するプログラム。森下スタジオの提供のみ(資金助成は非公募)。対象は、公演の主体となる芸術家/芸術団体、または企画をプロデュース/マネジメントする個人/団体。ただし、海外の芸術家/芸術団体が日本で公演を行う場合は、日本側の受け入れ先が確定していることを条件とする。特に日本の現代演劇・舞踊の紹介に継続的に取り組もうとする非営利機関との共同創造事業を優先的に支援する。

## 現代演劇・舞踊助成――芸術交流活動 II: 継続プロジェクト支援

演劇・舞踊の国際交流において特に重要な意義をもつと思われる 2年以上の継続プロジェクトへの支援を目的とした助成プログラム。 企画経費の一部に対して助成金を交付(2004年度実績:300万円/件)。希望者には公演稽古、ワークショップ開催の場として森下スタジオを提供。3年を上限として助成を行うが、継続の可否に関しては毎年見直す。対象となるのは、日本に活動の拠点を置き、申請時点で国際交流関係の事業の実績を持ち、活動歴が10年以上の個人/団体。プロデュース団体の場合は中心となる芸術家(演出家、脚本 家、振付家)が固定していることを条件とする。

#### 芸術交流活動【非公募】

海外の非営利団体との継続的なパートナーシップに基づいた芸術 創造活動、日本文化紹介事業、フェローシッププログラム等に対し て資金を提供する。

#### 特別助成【非公募】

現代演劇・舞踊以外の芸術・文化分野における国際交流事業を 支援。

## 自主製作事業・共催事業(セゾンシアタープログラム)

自主製作事業としてセミナー、ワークショップ、シンポジウムの主催、ニュースレターの刊行などを行う。

共催事業「セゾンシアタープログラム」では、現代演劇・舞踊の創造過程を支援し、かつ日本の舞台芸術界を活性化させるために非営利団体等と協力して創造性ある企画を実施。

## **GRANT PROGRAMS**

The grant-making activities of the Saison Foundation consist of (I) national programs designed to activate the fields of contemporary Japanese theater and dance, and (II) international programs intended to promote mutual understanding between Japan and other nations/areas through intellectual and artistic exchange projects.

## I. National Programs

### 1. Contemporary Theater and Dance — Creative Environment Improvement Program

#### For Workshops, Conferences, Symposia, etc.

This program supports workshops, conferences, symposia, and other projects aimed to improve the infrastructure of the contemporary performing arts community in Japan (Range of grants given in this program in 2004: \(\frac{1}{3}\)300,000 - \(\frac{1}{4}\)1,000,000). Priority use of the Foundation's rehearsal facilities in Tokyo (Morishita Studio) may be awarded instead of grants depending on the nature of the project.

For the year 2004, the Foundation invited projects with the following purposes in particular:

- Training workshops for developing and enhancing directing, acting, choreographing, dancing, administrating, and technical skills
- Discovery/development programs for talented new artists by halls and performing spaces, etc.
- Policy proposal projects for generating dialogues on art support issues, or systematic research projects with the aim to lay the groundwork for such discussions
- Conferences or symposia for promoting data and information sharing/disclosure systems within the performing arts

## **For Arts Management Studies**

This category assists Japanese performing arts managers to go abroad and study arts administration at universities or other educational institutions, or to undertake internships at performing arts organizations outside of Japan by awarding scholarships up to \(\frac{\text{\frac{\tinc{\tiny{\frac{\text{\frac{\text{\frac{\tinx{\tiny{\finter{\frac{\text{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\text{\frac{\text{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\text{\frac{\text{\frac{\text{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\fin}}}}}{\text{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\fin}}}}{\tiny{\finity}}}}}}}}}{\text{\text{\frac{\tinx{\frac{\tinx{\finity}}}{\tinx{\finity}}}}}}}} \text{\text{\frac{\tinx{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\fin}}}}}}}}}} \text{\text{\frac{\tinx{\finity}}}}}}}}} \text{\text{\frac{\tinx{\frac{\tiny{\frac{\tiny{\finity}}}}}}}} \text{\text{\frac{\tinx{\finity}}}}}}} \text{\text{\text{\finitty}}}}}}} \text{\text{\text{\finity}}}}}} \text{\text{\text{\tinx{\finity}}}}}}} \text{\text{\text{\finity}}}}}} \text{\te three years of professional experience in the field of performing arts administration, and (b) approval from the educational institution or performing arts organization accepting him or her for a period of more than three months, and (c) a long-term plan on how to contribute toward the development of Japanese theater or dance by applying the skills and knowledge acquired through

their studies or internship.

#### **Individual Travel Fellowship**

This category gives partial support to individuals who wish to travel abroad to come into contact with inter-cultural experiences by awarding fellowships up to \(\frac{\pma}{1}\),000,000. Applicants must have more than three years of professional working experience in one of the following occupations and plan to travel abroad for more than one month: directing, choreography, playwriting, performing arts criticism, or producing.

### 2. Contemporary Theater and Dance — Artistic Creativity Enhancement (ACE) Programs

The aim of these general operating support programs are to allow artists and/or companies to concentrate on their artistic work by awarding long-term grants of between three to six years and priority use of Morishita Studio for rehearsals and creative

#### Artistic Creativity Enhancement (ACE) Program I

This program awards grants and priority use of Morishita Studio for three consecutive years as a rule to promising Japanese theater and dance artists/companies with an active history of less than fifteen years and whose expenditures for the previous fiscal year were or are expected to be over ¥4,000,000. Individual artists are required to establish a company or organization in the near future. (Range of grants given in this program in 2004: ¥3,000,000/company.)

#### **Artistic Creativity Enhancement (ACE) Program II**

Grants and priority use of Morishita Studio are awarded for another three years as a rule to grantees chosen among the companies who have completed the above program. (Range of grants given in this program in 2004: ¥3,000,000/company.) This program will be terminated after those receiving the ACE I grants from 2001 or earlier use up their application rights.

#### **Incentive Aid to Young Artists**

Small subsidies are awarded to a chosen few among the young performing artists/companies who have applied to and passed the first screening of the ACE I program.

## Special Project Support Program (designated fund program)

This program awards grants to cultural or artistic projects belonging to fields other than contemporary theater or dance.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

## **II. International Programs**

#### 1. Intellectual Exchange Programs

### Contemporary Theater and Dance — Intellectual Exchange Program

The Contemporary Theater and Dance — Intellectual Exchange Program supports conferences, symposia, translation/publication and other related projects that improve the visibility of contemporary Japanese theater and dance within the international performing arts community (Grants given in this program in 2004: ¥600,000 – ¥1,000,000/grantee). Priority use of Morishita Studio is also awarded depending on the grantee's request.

## Translation/Publication Project Program (designated fund program)

Financial support is provided to translation and publication projects of Japanese social science and humanities literature and to activities related to these areas.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

## 2. Artistic Exchange Programs

### Contemporary Theater and Dance — Creative Exchange Program (Studio Award)

The aim of this program is to stimulate international creative projects and to promote Japanese performing arts on a global scale, including collaboration projects and performances, and/or workshops held during the process of such activities (only Studio Awards are given under this program). Artists/companies organizing collaboration projects or performance tours, or individuals and organizations involved in the production and/or management of the above projects are eligible to apply to this program. Applicants based outside of Japan who are planning to conduct a tour in Japan are required to find a Japanese host organization before submitting an application. Priority will be given to collaboration projects with not-for-profit organizations outside of Japan that are committed to working with and presenting contemporary Japanese theater and dance artists/companies.

#### Contemporary Theater and Dance — Creative Exchange Program — For Long-Term Projects

A grant program that awards long-term grants to international exchange projects in which contemporary Japanese theater or dance artists/companies are involved and require more than two years until completion. (Grants given in this program in 2004: ¥3,000,000/grantee). Priority use of Morishita

Studio is also awarded upon request. Those eligible to apply to this program are (a) individuals or companies based in Japan with a professional career of more than ten years in the field of performing arts, and (b) with a history of artistic achievements in the area of intercultural exchange activities at the time of application.

## Artistic Exchange Project Program (designated fund program)

This designated fund program supports activities by not-forprofit organizations outside of Japan with a continuous partnership with the Saison Foundation, including creative work by artists/companies, projects with the aim to familiarize Japanese culture to other nations, and fellowship programs.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

## Special Project Support Grant Program (designated fund program)

This program provided support to international cultural exchange projects belonging to fields other than contemporary theater or dance.

Note: Applications to this program are not publicty invited.

# SPONSORSHIP AND CO-SPONSORSHIP PROGRAMS (SAISON THEATER PROGRAM)

Apart from making grants, the Saison Foundation sponsors and organizes seminars, workshops, and symposia, and publishes a newsletter.

In order to support and enhance the creative process within contemporary theater and dance and to stimulate the performing arts scene in Japan, the Saison Foundation also organizes creative projects by working with artists/companies, not-for-profit organizations, and other groups under its co-sponsorship program known as the Saison Theater Program.

## 本年度の事業について

## 片山正夫 常務理事

本年度は、現代演劇・舞踊分野を中心に、55件・総額6,922万円の助成を行った。また同分野に関連した自主製作事業・共催事業を5件開催した。

過去2年度続けて減額を余儀なくされた助成金支出予算を、財産 運用の効率化や、支出の見直しを図ることで、本年度はひとまず据 え置くことができた。今後は少しずつでも増額できるよう努めたいと 思う。

\* \* \*

本年度は、当財団の運営する森下スタジオが開館10周年を迎えた。開館以来、3つのスタジオは、ほとんどフル稼働に近い状態が続き、作品制作やワークショップの場としてここを使用したアーティスト・芸術団体はのべ350組を超えた。

10年前の開館に至る道のりを思い返すと、とくに主務官庁の理解を得るのに大変苦慮したことが思い出される。アーティストの創造プロセスを長期的かつ複合的に支援するという当財団の基本政策からすれば、稽古場を作るというアイデアはいわば自然な帰結であったのだが、実際に承認を得るには長い時間を必要とした。助成財団が舞台芸術を支援するといえば、個別の公演に助成するか、アーティスト個人に奨学金を出すかくらいしかわが国では行われておらず、このような施設を自ら造り、運営するのは前例がなかったためである。

当時から較べると、現在の状況は大きく様変わりしたといえる。全 国の自治体や、企業において、演劇やダンスの稽古スペースを提供 するタイプの芸術支援は、もはや珍しいものではなくなった。民間助 成財団は本来このように、前例に拘束されるべきものではなく、むし ろ前例をつくり社会に提示すべき存在なのではないだろうか。

森下スタジオは、当初の想定どおり、主として作品創造の場として活用されてきた。本年度は、芸術創造活動プログラムで長期的に支援している劇団・ダンスカンパニー10団体のうち、東京に拠点を持つ7団体がのべ437日間使用した。次いで頻度が高いのは、創造環境整備プログラムで重点的に支援している教育活動や、情報交流活動の場としての活用である。本年度はのべ20本を超えるワークショップを始め、「国際劇場セミナー&シンポジウム」「アジア・パフォーマンス・アート東京会議」などの交流事業がこの場で催された。

これらに加えて近年増えつつあるのが小規模な公演やショーイン グの開催である。森下スタジオはもともと稽古場であって興行場で はない。そのため楽屋もなく機材も不十分で、公演会場としては使 い勝手が悪い。しかし、たとえば本年度でいえば、最終年を迎えた自主製作事業「ネクスト・ネクスト」のように、若手の育成や紹介の機会提供を主眼としたものや、劇団燐光群による『フィリピン ベッドタイム ストーリーズ』、うずめ劇場による『夜壺』など、助成先団体による実験的な公演には、「舞台と観客を隔てない、ここならではの親密さ」」が、却って強みとなる。また、本年度も何件か開催されたワークショップの成果発表会や、創作過程で作品を公開するワーク・イン・プログレスなども、森下スタジオのユニークな役割を反映したプログラムとして定着しつつある。

振り返ると森下スタジオの可能性は、この10年間アーティストたちの想像力によって試され続けてきたことに気づかされる。かつて、シアターワークス (シンガポール) の芸術監督であるオン・ケンセン氏は、このスタジオで日本の現代アーティスト達とワークショップやディスカッションを重ね、戦争と現代の問題を挑発的に問う作品を創作・公開したii。彼もまた森下スタジオのフロンティアを拡げてくれた一人なのである。その彼が、今年度はおよそ2ヶ月のレジデンシーを行い、この間、新しい作品の創作やリサーチ活動を行う傍ら、当財団の助成対象者をはじめとする多くのアーティストに会い、さまざまな議論を行った。週末には、彼のシンガポールでの活動や、これまで関わったコラボレーションの報告会を開催、多くのアート関係者の関心を集めた。決まった結果を前提とするのではなく、語り合い、思索し、試行錯誤するための場としての活用もまた、森下スタジオの今後を示唆するものといえるであろう。

本年度、森下スタジオは、傷みの目立つ箇所を中心に若干のリニューアル工事<sup>※</sup>を行った。次の10年間、この場がどのように進化していくのか、われわれ自身も楽しみにしているところである。

\* \* \*

ところで、先ほども少し触れたように、2000年度より継続してきた自主製作事業「ネクスト・ネクスト」が5回目をもって最終回を迎えることとなった。若手振付家によるこのダンス・ショーケースは、もともと「パークタワー・ネクストダンス・フェスティバル」ivに出品する作品の稽古を森下スタジオで行うことになったことが契機で企画されたものである。

当時すでにこのフェスティバルは、コンテンポラリー・ダンスの若手振付家の登竜門として定着した存在であったが、いっぽうで当財団は、STスポット、セッションハウス、DANCE BOXといった小スペー

ス<sup>V</sup>が取り組む若手育成プログラムへの支援を継続して行っていた。 そこでこの両者を結び合わせ、新しい才能にステップアップの機会 を提供することによって、効果的な支援の枠組みができるのではな いかと考えたのである。森下スタジオは、空間の大きさとしてもパー クタワーホールと小スペースの中間に位置しており、次のフェスティ バルを目指すアーティストのためのショーケースの場には最適であっ た。

毎年師走の一度きりの公演であったが、アートNPO、企業 vi、財団の3つの異なった立場の支援者によるこのユニークなコラボレーションは、芸術面でも、また観客の拡大という面でも一定の成果を生んだものと思う。この5年の間に、企業等によるコンテンポラリーダンスへの支援は充実し、若手のプレゼンテーションの場も増えた。われわれとしては、この試みもひとまず役割を終えたと判断し、新たな支援プログラムをまた模索していきたいと考えている。

\* \* \*

なお本年度「フランス・ダンス・03」viiより、寄付金約395万円を受け入れた。当財団としては、この寄付金を基に、2005年度より、日仏間のダンス交流を促進するプログラムを新設する意向である。「フランス・ダンス・03」の関係者の皆様に御礼を述べたいと思う。

i. 石井達朗「ネクネクダンサーズ、師走の乱拍子」(「ネクスト・ネクスト」 プログラム 2004)

ii. Dreamtime in Morishita Studios (2001)

iii. 工事費2265万円を、森下スタジオ修繕基金資産より充当

iv. 主催:パークタワー・アートプログラム、提供:東京ガス都市開発株式会社

v. DANCE BOX は現在Art Theater dBを運営するNPO

vi. アサヒビール株式会社、トヨタ自動車株式会社にも継続的な支援を頂いた

vii. 2003年度、日本全国で開催された、フランスのコンテンポラリー・ダンスを紹介 するフェスティバル。主催はフランス外務省AFFA、フランス大使館、朝日新聞 社、フランス・ダンス・03実行委員会。

## **About Our Programs in 2004**

Masao Katayama Managing Director

In 2004, the Saison Foundation supported fifty-five projects and companies — mostly in the fields of contemporary theater and dance — and expended a total of \(\frac{4}{69},220,000\) for grants, while also sponsoring and co-sponsoring five events.

Although we had to keep reducing our grant expense budget for two years in a row, we were able to avert this in 2004 through efficient asset management and re-examination of our annual expenditures. We will make every effort to increase our grant expense budget, however gradually it may be, in the coming years.

\* \* :

The year 2004 was the tenth anniversary of the opening of Morishita Studio, a building with rehearsal facilities owned and operated by the Saison Foundation. Since its opening in 1994, the three studios within the building have more or less been fully occupied and a total of more than 350 artists/companies have used the studios for creating new works and/or for workshops.

Looking back at the steps we had to take till the opening of Morishita Studio ten years ago, I recall that it was extremely difficult to make our intentions understood by our authorizing government agency. Since the essential policy of our foundation has been to support the creative process of artists on a long-term basis and in a compound way, the idea of creating rehearsal facilities was a natural consequence for us. Yet it took a long time for the government agency to approve the construction of the building. In those days, programs supporting the performing arts by most grant-making foundations in Japan were merely limited to project-only grants for performances or to provide scholarships to individual artists; the act of a grant-making foundation building a space with rehearsal facilities and operating it by itself was unheard of.

Much has changed within the past decade. Nowadays, it is common for local governments or corporations to support the arts by providing rehearsal spaces to theater and dance companies. We feel that a private grant-making foundation should essentially create precedents and to present them to society in this way, rather than to follow or to be bound by them.

As originally planned, Morishita Studio has been used mostly as a place to create new work. Among the ten companies now receiving grants under the two Artistic Creativity Enhancement (ACE) Programs, seven that are based in Tokyo used the Studio for 437 days in total in fiscal year 2004. The next category that used the Studio most frequently after the ACE companies were educational projects or data sharing/communication projects that we supported intensively under our Creative Environment Improvement Program. More than twenty workshops, plus exchange/communication projects such as the International Theatre Management Meeting or the Asia Performance Art Meeting in Tokyo, were held at Morishita Studio in 2004.

In addition to the above projects, there has been an increase

in the numbers of small-scale performances and showings being held at the Studio recently. The Studio was designed and built for rehearsal use, not for actual performances. It is an inconvenient venue to hold performances since there are no backstage dressing rooms and the stage equipment and devices are inadequate. Nevertheless, "the intimacy between the stage and the audience unique to this studio that brings the two closely together" i has been recognized as an advantage in development programs and events in which young artists are offered opportunities to present their work before public audiences, such as our sponsorship program known as Next Next dance showcase event, which ended in 2004, or experimental productions by our grantees such as Theatre Company Rinkogun's Philippine Bedtime Stories or Uzume Theater's The Night Pot. Additionally, a number of workshops presentations or work-in-progress showing events have begun to be firmly established as programs that reflect the unique role of Morishita Studio.

Reflecting at the past, we realize that the potential of Morishita Studio has been tested constantly through the imagination of the artists during this decade. A few years ago, Ong Keng Sen, the artistic director of the Singaporean company TheatreWorks, created and staged a work at Morishita Studio that challengingly pursued the issue of war and the present age through discussions and workshops with Japanese contemporary artists. ii Ong is one of the artists who expanded the boundaries at Morishita Studio. In fiscal year 2004, Ong conducted a residency at the Studio for two months, and during this period he met many artists including our grantees and awardees and held various discussions with them while creating new work and doing research on his own. On weekends, Ong gave presentations on his past collaboration projects, which attracted a large audience from the arts world. Ong's use of Morishita Studio as a location to discuss, to contemplate, and to repeat trial and error without any fixed result of work in mind also suggests the future of the place.

In 2004, Morishita Studio underwent minor refurbishment to repair parts and areas that have suffered from wear and tear. How this location will evolve during the next ten years is something we ourselves are looking forward to.

\* \* \*

As mentioned above, the year 2004 was the fifth and final year of the *Next Next* dance showcase, which had been held annually since 2000. This event, which presented the works of young choreographers, originally began when Morishita Studio became the rehearsal venue for the artists participating in the Park Tower Next Dance Festival. iv

While the Next Dance Festival was already recognized as a gateway for young choreographers at the time, our foundation had been supporting dance development programs for young choreographers continuously for some years that were coordinated by small performing arts spaces such as ST Spot of Yokohama, Session House of Tokyo, and DANCE BOX of Osaka \*. We then thought that by linking these two different levels of dance development schemes, and by providing another set of opportunities to new talented artists, an effective frame of support could be constructed. Morishita Studio was the ideal venue for such a showcase for artists aiming to participate in the Next Dance Festival the following year since its size is just between the Park Tower Hall and the above three small performing arts spaces.

Although *Next Next* was an event that took place once a year in December, we believe the unique collaboration among non-profit art organizations, corporations vi, and a foundation, each having a different stance within the contemporary dance scene, created successful results from an artistic viewpoint as well as in the cultivation of new audiences. Within these five years, the level of corporate support to contemporary dance has enhanced, and presentation opportunities for young choreographers have also increased. We feel that *Next Next* has completed its role for the time being and now hope to explore new support programs for the future.

\* \* \*

Lastly, we are delighted to mention that our foundation has received a donation of \(\frac{\pmathbf{x}}{3}\),950,000 from the *france danse 03* festival office in 2004 vii. With this generous gift, we plan to start a new dance exchange development program between France and Japan from 2005. We would like to take this opportunity to thank those at the *france danse 03* festival office.

i. From an essay by dance critic Tatsuro Ishii for the Next Next 5 program.

ii. Dreamtime in Morishita Studios.

iii. Refurbishment expenses were \$22,650,000 and appropriated from the repairs and refurbishment reserve fund for the Studio.

Sponsored by the Park Tower Art Program and presented by Tokyo Gas Urban Development Co., Ltd.

DANCE BOX is now a non-profit organization managing a theater called Art Theater dB.

The Next Next dance showcase event also received continuous support from Asahi Breweries, Ltd. and Toyota Motor Corporation.

vii. A festival held throughout Japan in 2003 to promote contemporary French dance, sponsored by the French Ministry of Foreign Affairs' Association Française d'Action Artistique (AFAA), The Embassy of France in Japan, Asahi Shimbun, and the france danse 03 committee.

## 国内プログラム National Programs

#### 1. 現代演劇·舞踊助成——創造環境整備

**Contemporary Theater and Dance** — Creative Environment Improvement Program

創造環境整備プログラムでは、現代演劇・ 舞踊界の創造基盤に関わる問題解決・改善 に向けての活動を支援することを目的として いる。2004年度は23件の事業を採択した。

今年度、現代演劇の創造環境を巡る問題で、ひとつの大きな動きとなったのは、2005年4月より開設が決まった新国立劇場の演劇研修所による俳優養成研修である。当財団でも支援を続けてきた俳優指導者養成ゼミ2004イントロダクション・コース&リフレッシュコースのネットワークユニットDuoやショーケースを目的としたヴォイスとムーヴメント・トレーニングの池内美奈子らがコーディネーターや講師として名前を連ねている。早くから、日本の現代演劇の俳優育成については強い問題意識をもって活動していた二人なので、今後の活躍に期待したい。

また、海外で活躍するダンサー/振付家の 「里帰り」ダンスワークショップは、今年度で助 成の最終年度を迎えた。現在は、ザ・フォーサ イス カンパニーに所属する安藤洋子(UNDO) による安藤洋子ダンスワークショップ、マルセ イユ国立バレエ団の遠藤康行が、ローザスの 社本多加と立ち上げたBOnoBOSが、森下 スタジオを使用して年に1~2回、定期的に 三年間継続してワークショップを実施した。 安藤は、当時所属していたフランクフルトバ レエ団の同僚を招き、ボディトレーニングとイ ンプロビゼーションを中心としたワークショッ プ、遠藤は、社本と共に創作の方法を、音楽、 映像などの要素を取り込みながら探るワーク ショップを行った。最終年度は、ヨーロッパ でのコンテンポラリーダンスの状況を生で体 験出来る場とあって、双方のワークショップと も、多くの参加者を得、さながらひとつのカン

パニーのような親密さと活気に満ちていた。

東京外での地域間交流も活発に行われて いる。おかやまアートファームによる岡山舞台 芸術ゼミナールは三年間の助成期間を経て、 2005年度よりNPO法人アートファームとして 満を持しての活動が始まる。Ort-d.dの倉迫 康史が総合演出、プロデュースを務める**創作** ネットワーク委員会『昏睡』上演プロジェクト は、各地域の演出家をひとつの作品で結ぶ ユニークな演劇作品である。こふく劇場(宮 崎) の永山智行が書いた戯曲を山口の自由 下僕 (POP THEATREЯ)、北九州の泊篤志 (飛ぶ劇場)、鳥取の森本孝文(演劇企画夢 ORES) の5地域の演出家/劇団の協力のも とに各地域で創作・上演された。地域の演 出家たちから立ち上がったネットワークによ る新たな創作方法の提案として非常に興味 深いものだった。ダンスの分野でも、地域 ではまだ十分ではないコンテンポラリーダン スのすそ野を広げるため、毎年開催されてい るワークショップ・フェスティバル「京都の暑 い夏|で来日した講師を地域に派遣するダン ス・ワークショップ・リンク事務局にも助成を 開始した。助成期間に、ワークショップ運営 のノウハウや他地域との交流を深め、最終的 には各地域で自立した運営がなされることを 期待している。

また今年度は、日本では、あまり理解の進んでいない芸術分野におけるマーケティングの問題を舞台芸術環境フォーラム地域マネジメントセンターが取り扱った第3回国際劇場経営セミナー会議「集客から創客へ/IT社会とアーツマーケティング、その可能性。」や、制作者の仕事の可能性を海外の事例から考察するアートネットワーク・ジャパンの

『ドラマトゥルクの可能性を巡って』、実務経験豊かな制作者たちが中心となってアーツ・マネジャーたちの海外留学の情報交流推進を目的に立ち上げられた芸術分野海外研修サポートプロジェクトなど、意欲的な事業が実施された。これらは、日本のアーツ・マネジャーたちの専門度を向上させる非常に有益な機会となった。

## 

助成対象23件/助成総額:15,900,000円

#### ■演劇教育

#### 池内美奈子

ショーケースを目的としたヴォイスとムーヴメント・トレーニング 2004年12月22日-2005年2月27日 東京(森下スタジオ) 1,000,000円 スタジオ提供30日間

ウインドミルオフィス

#### 演劇を創る上での理論と実践

2004年5月1日-2005年3月13日 東京(永代リバースポット、こまばアゴラ劇場、森 下スタジオ)

500,000円 スタジオ提供5日間

#### 特定非営利活動法人 STスポット横浜 スパーキング21 vol.15

2004年7月16日-2005年3月23日 神奈川(STスポット、岩崎ミュージアム山手ゲー テ座、赤レンガ倉庫一号館ほか横浜市内施設) 1,000,000円 スタジオ提供31日間

シアター・ジャパン・プロダクションズ ニューヨーク・アクターズ・ワークショップ イン 東京

2004年8月9日-8月21日 東京(森下スタジオ) スタジオ提供13日間



Minako Ikeuchi (left) at the *Voice and Movement Training Workshop* at Morishita Studio.



The choreographer/dancer Akira Kasai at the *Takeshi Kawamura & Akira Kasai Workshop* organized by T factory at Morishita Studio, June 2004.

株式会社ティーファクトリー 川村毅十笠井叡 台詞と身体のワークショップ 2004年6月11日-6月13日 東京(森下スタジオ) スタジオ提供3日間

## 株式会社 花組芝居 平成新女形講習

2004年11月11日-11月20日 東京(森下スタジオ) 300,000円 スタジオ提供10日間

ネットワークユニットDuo 俳優指導者養成ゼミ2004 イントロダクション・ コース&リフレッシュ・コース 2004年12月6日-12月21日 東京(森下スタジオ) 1,000,000円 スタジオ提供12日間

#### ■舞踊教育

#### UNDO

安藤洋子ダンスワークショップ 2004年10月25日-11月17日 東京(森下スタジオ) 900.000円 スタジオ提供20日間

木佐貫ダンスオフィス 2004年木佐貫邦子十néo 夏期集中ダンスワー クショップ

2004年8月24日-9月18日 東京(森下スタジオ) スタジオ提供11日間

京都ダンスアカデミー 第8回京都ダンスアカデミー in Summer & in Winter

2004年8月8日-2005年3月14日 京都(京都芸術センター) 1,000,000円

#### 株式会社ステーション

10,000のステップで綴る記憶 ワークショップ (中馬芳子/The School of Hard Knocks) 2004年6月24日-2005年2月6日 東京、新潟、岩手、アメリカ(森下スタジオ、スーパーデラックス、川冷神社、リハーサルスタジオ、ベーコン・アート・センターほか)

## セッションハウス企画室

1,000,000円 スタジオ提供22日間

セッションハウス・レジデンス アーティスト・システム

2004年4月1日-2005年3月19日 東京(セッションハウス地下スタジオ・セッション ハウス・ガーデン、森下スタジオ) 700,000円 スタジオ提供1日間

S・O・L・O 1481367 Ontario Limited S・O・L・O Class & Talk Project Vol. 3 2004年7月9日—7月12日 東京(森下スタジオ) スタジオ提供8日間

特定非営利活動法人 ダンスボックス DANCE BOX―コンテンポラリーダンス育成支 援プログラム― 2004年4月1日―2005年3月31日

大阪 (Art Theatre dB) 1,000,000円

#### Transparence

表現する身体ワークショップ ~失われた時を求めて

2004年11月22日-11月26日 東京(森下スタジオ) スタジオ提供5日間

#### **BOnoBOS**

創造活動における方法と可能性の模索 2004年12月20日-12月29日 東京(森下スタジオ) 900,000円 スタジオ提供10日間

#### ■舞台芸術全般

おかやまアートファーム 岡山舞台芸術ゼミナール 2004年4月17日-2005年1月16日 岡山(岡山市立旧出石小学校、岡山市立西川アイ プラザ) 1,000,000円

#### ■情報交流

NPO法人アートネットワーク・ジャパン ANJ講座シリーズ Vol.3 ドラマトゥルクの可能性 を巡って 2005年3月22日

東京(東京ドイツ文化センター) 1,000,000円

芸術分野海外研修サポートプロジェクト 芸術分野海外研修サポートプロジェクト 2004年4月1日-2005年3月31日 東京(森下スタジオ、カンバス) 1.000.000円 スタジオ提供1日間

創作ネットワーク委員会 『昏睡』上演プロジェクト

2005年2月12日— 2月28日

宮崎、山口、東京(門川総合文化会館、三股町立 文化会館、山口情報芸術センター、にしすがも創 造舎)

1,000,000円

ダンス・アンド・メディア・ジャパン ダンスとメディア 2004 2004年8月1日-8月28日 東京、京都、山口(スパイラルホール、京都造形 芸術大学スタジオ21、山口情報芸術センター、 アップリンクギャラリー、森下スタジオほか) 600,000円 スタジオ提供5日間

ダンス・ワークショップ・リンク事務局 ダンス・ワークショップ・リンク



Movement instructor You-ri Yamanaka at the Seminar for Actors' Teachers in 2004-Introduction course and Retraining course organized by Network Unit Duo at Morishita Studio, December 2004.



The 8th Dance Academy Kyoto in Summer & in Winter.

#### 2004年4月2日-5月9日

福岡、愛媛、広島、高知、宮城、京都(パピオビールーム、三ノ上万由美バレエスタジオ、松山大学、DANCE CREAM、グリーンアリーナ武道場、青葉区中央市民センターほか) 1,000,000円

特定非営利活動法人 (NPO) 舞台芸術環境フォーラム地域演劇マネジメントセンター

第3回 国際劇場経営セミナー会議「集客から創客へ/IT社会とアーツマーケティング、その可能性。」

2005年2月10日-2月12日 東京(森下スタジオ) 1,000,000円 スタジオ提供3日間

The Composite Supporting Program for Raising the Contemporary Dance Artists& Environments organized by DANCE BOX. Photo: Kaori Ito

The Creative Environment Improvement Program supports projects and activities aimed to overcome obstacles in or to improve the infrastructure that sustains contemporary theater and dance in Japan. In 2004, twenty-three projects were awarded grants and/or priority use of Morishita Studio under this program.

One of the most significant issues concerning the creative environment of Japanese contemporary theater in 2004 was the announcement of a training and development program for actors at the New National Theater's Drama Studio in Tokyo, which opened in April 2005. What is noteworthy is that two of our grantees are participating in this program as coordinators and instructors: one is Megumi Kawaminami of Network Unit Duo, who has organized introductory and refresher courses for acting instructors; the other is voice trainer Minako Ikeuchi. The two have been actively involved with a strong awareness in acting training in contemporary Japanese theater from an early period, and we expect them to make a huge contribution to this area.

2004 was also the final year of support towards the so-called "homecoming workshops" by Japanese dancers working outside of Japan. The **UNDO** workshop by Yoko Ando, currently a dancer of The Forsythe Company, and the **BonoBOS** workshop by Yasuyuki Endo of Ballet National de Marseilles and Taka Shamoto of Rosas each used Morishita Studio for one or two fixed periods per year for three years in a row. Ando, who was at the time a member of Ballett Frankfurt, invited her colleagues as instructors and held workshops focused on body training and improvisation. Endo and Shamoto conducted workshops that

explored the possibilities of creation along with other genres such as music and video. By the end of their grant period of three years, the two workshops, which provided firsthand experience of European contemporary dance techniques and styles, had a huge following and almost even had the intimacy and energy of real dance companies

Additionally, a number of lively exchange projects took place among regions outside of Tokyo. After our foundation supported its seminars for three years in a row, Okayama Artfarm will start as an officially approved Non-Profit Organization (NPO) in 2005. Creative Network **Committee** presented a play called *COMA*, which was a unique theater project linking several regional directors. Organized by Koji Kurasako of Ort-d.d,. who was executive director and producer of this project, playwright/director Tomoyuki Nagayama of Cofuku Gekijyo of Miyazaki prefecture wrote the script, and Shitaboku Jiyu of the Yamaguchi-based company POP THEATRES (Ya), Atsushi Tomari of Tobugekijyou of Kitakyushu, and Takafumi Morimoto of the theater company Yume Ores of Tottori participated as directors of the play, which was staged in each of the above areas. The proposal of this new creative method from a regional network of directors was extremely remarkable. In contemporary dance, which is still a genre that requires much work in order to gain recognition in rural areas, we have started giving grants to the Kyoto-based Dance Workshop Link (DWL) Office, who dispatched international dance artists visiting Japan for their Hot Summer in Kyoto dance workshop festival to various regions. During its grant-receiving period, DWL hopes



First symposium organized by the United Fellows for the Arts, June 2004, at Morishita Studio.



Human Network of Performinga Arts COMA Project in Yamaguchi, February 2005. Photo: Shuji Kubota

to share workshop management skills with other regions and enhance communication among those areas so that they may become self-sufficient in the end.

Furthermore, we supported a number of arts management-related projects in 2004, such as the seminar/conference that focused on the issue of marketing in the arts, which is a concept that is still unfamiliar in Japan, entitled Third International Theatre Management Meeting — From Attracting an Audience to Creating an Audience/Arts Marketing and its Potential in the IT Society by the Performing Arts Environmental Forum (PAEF), and Art Network Japan's lecture entitled Seeking Perspectives of Dramaturgy, which examined the possibilities of arts managers with case studies from abroad, plus the highly motivated activities of the United Fellows of the Arts, an organization founded by experienced arts managers committed to promote information-sharing on overseas studies and internships. These projects and activities proved to be extremely useful in improving the expertise of Japanese arts managers.

# Contemporary Theater and Dance — Creative Environment Improvement Program

23 Grantees/Total appropriations: ¥15,900,000

# ■ Workshops and Educational Projects [Theater/Drama]

Hanagumi Shibai Heisei Shin-Onnagata Workshop November 11 – November 20, 2004 Tokyo (Morishita Studio) ¥300.000 Studio Rental: 10 days

## Ikeuchi Minako

Voice and Movement Training Culminating in a Showcase

December 22, 2004 – February 27, 2005 Tokyo (Morishita Studio) ¥1,000,000 Studio Rental: 30 days

#### Network Unit Duo

Seminar for Actor's Teachers in 2004-Introduction course and Retraining course December 6 – December 21, 2004

Tokyo (Morishita Studio) ¥1,000,000 Studio Rental: 12 days

#### ST Spot Yokohama Sparking 21 vol.15

July 16, 2004 – March 23, 2005 Kanagawa (ST spot etc.) ¥1,000,000 Studio Rental: 31 days

#### T factory

Takeshi Kawamura & Akira Kasai Workshop

June 11 – June 13, 2004 Tokyo (Morishita Studio) Studio Rental: 3 days

#### Theatre Japan Productions, Inc. New York Actors Workshop in Tokyo

August 9 – August 21, 2004 Tokyo (Morishita Studio) Studio Rental: 13 days

#### Windmill Office

Theory and Practice for Developing a Play May 1, 2004 – March 13, 2005 Tokyo (Komaba Agora Theater, Morishita Studio etc)

¥500,000 Studio Rental: 5 days

#### [Dance]

#### BOnoBOS

Workshop for researching movement and creativity

December 20 – December 29, 2004 Tokyo (Morishita Studio) ¥900,000 Studio Rental: 10 days

#### NPO DANCE BOX

The Composite Supporting Program for Raising Contemporary Dance Artists & Environments

April 1, 2004 – March 31, 2005 Osaka (Art Theatre dB) ¥1,000,000

#### K Dance Office KISANUKI KUNIKO + néo DANCE WORK-SHOP IN SUMMER 2004

August 24 – September 18, 2004 Tokyo (Morishita Studio) Studio Rental: 11 days

#### Kyoto Dance Academy The 8th Dance Academy Kyoto in Summer & in Winter

August 8, 2004 – March 14, 2005 Kyoto (Kyoto Art Center) ¥1,000,000

#### Session House Planning Office Session House Residence Artists System

April 1, 2004 – March 19, 2005 Tokyo (Session House, Morishita Studio) ¥700,000 Studio Rental: 1 days

#### S.O.L.O. 1481367 Ontario Limited Class & Talk Project Vol. 3

July 9 – July 12, 2004 Tokyo (Morishita Studio) Studio Rental: 8 days

#### Station

STATIONARY MOTION/10,000 STEPS WORK-SHOP

June 24, 2004 - February 6, 2005

Tokyo, Niigata, Iwate, USA (Morishita Studio, Super Deluxe, Kawaii Shrine, Rehearsal Studio. Beacon Arts Center etc)

¥1,000,000 Studio Rental: 22 days

#### Transparence Workshop of expression — the review of the Past Time

November 22 - November 26, 2004 Tokyo (Morishita Studio) Studio Rental: 5 days

#### UNDO

Yoko Ando Dance Workshop October 25 – November 17, 2004 Tokyo (Morishita Studio) ¥900,000 Studio Rental: 20 days

#### [General]

#### Okayama Artfarm

Okayama Performing Arts Seminary vol.4 April 17, 2004 - January 16, 2005 Okayama (Izuishi School, Nishikawa Ai Plaza) ¥1.000.000

#### [Data Sharing/Communication]

Arts Network Japan ANJ lecture series Vol.3 Seeking Perspectives of Dramaturg March 22, 2005 Tokyo (Goethe-Institut Tokyo) ¥1,000,000

#### Creative Network Committee **COMA** Project

February 12 – February 28, 2005 Miyazaki, Yamaguchi, Tokyo (Kadogawa Culture Hall, Minata-Cho Culture Hall, Yamaguchi Center for Arts and Media, Nishi-Sugamo Arts Factory) ¥1,000,000

#### Dance and Media Japan Dance and Media 2004

August 1 - August 28, 2004 Tokyo, Kyoto, Yamaguchi (Spiral Hall, Kyoto University of Art and Design, YCAM, Uplink Gallery, Morishita Studio etc) ¥600,000 Studio Rental: 5 days

#### Dance Workshop Link Office Dance Workshop Link

April 2 – May 9, 2004

Fukuoka, Ehime, Hiroshima, Kouchi, Miyagi, Kyoto (Papio Bee Room, Minokami Mayumi Ballet Studio, Matsuyama Univ., Dance Cream, Green Arena Budojo, Aobaku Community Center etc)

¥1,000,000

Performing Arts Environmental Forum (PAEF) The Third International Theatre Management Meeting — From Attracting an Audience to Creating an Audience/ Arts Marketing and its Potential in the IT Society February 10 - February 12, 2005 Tokyo (Morishita Studio) ¥1,000,000 Studio Rental: 3 days

United Fellows of the Arts United Fellows of the Arts April 1, 2004 - March 31, 2005 Tokyo (Morishita Studio, Free Space Canvas)

¥1,000,000 Studio Rental: 1 day

芸術団体に対し複数年にわたって運営助 成を行う本プログラムでは、現代演劇・舞踊 界での活躍が今後期待される若手と、次段 階としてさらに国際的な活躍が期待される中 堅の芸術団体の育成を目的とし、芸術創造 活動 IとIIの2段階 (原則としてそれぞれ3年 間の継続助成)で、助成金の交付および森 下スタジオの提供による支援を行っている。

本年度は芸術創造活動【の助成対象者と して、舞踊のBATIKが新たに選抜された。 また昨年度芸術創造活動 [を終了した演劇 の劇団指輪ホテルと、2002年度に終了した 舞踊のレニ・バッソが芸術創造活動Ⅱに採 択され、前年度からのI、IIの継続助成をあわ せると10団体への助成を行った。

BATIKは、2002年に設立された、黒田育 世振付による作品創造を中心とする、女性 ダンサーによって構成されるダンスカンパ ニー。バレエのテクニックを基礎に持った カンパニーとして、多様化するコンテンポラ リーダンスの表現の中で「踊ること」にこだ わる活動を展開している。作品創造の根源 として、皮膚感覚を大切にし、いまここにあ る身体に向き合うことから始め、抽象論的で はない身体の存在自体の違和感を探求して いく。主宰の黒田は2002年に「ランコント ル・コレグラフィック・アンテルナショナル・ ドゥ・セーヌ・サン・ドニ (旧バニョレ国際振 付賞) ヨコハマプラットフォーム | にてナショ ナル協議員賞、静岡県舞台芸術センター主 催 [SPAC ダンス・フェスティバル 2003] に て優秀賞、「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2003 にて 「次代を担う振付家賞」 (グランプリ)と「オーディエンス賞」、また 2005年には朝日舞台芸術賞・キリンダンス

## 国内プログラム National Programs

## 2. 現代演劇·舞踊助成——芸術創造活動

Contemporary Theater and Dance — Artistic Creativity Enhancement (ACE) Programs

サポートを受賞している。

継続助成が決まったもののうち、2件が本年度で継続助成最終年度を迎えた。芸術創造活動Iを終了した舞踊のニブロールは3年間を通じて精力的に活動し、海外公演のみならず、美術の分野でも海外進出を実現、また演劇分野におけるコラボレーションの機会を得るなど様々な展開がみられた。また芸術創造活動IIを終了した演劇のMONOは現代演劇の劇団の中でもメジャーな存在になるまでに発展を遂げた。とりわけ劇団活動と並行しながら劇作家・演出家としてさまざまな仕事をこなし、その作品が映画化され、かつ英訳されるようになった主宰・土田英生の成長が大きい。

本年度の活動概要については後述のデータ編を参照されたい。

また、本年度より新たに、今後の活動が期待される若手アーティストへの支援策の一環として、芸術鑑賞やワークショップ参加などの研修を奨励する若手奨励助成を開始した。このプログラムは、若手アーティストが他者の作品を鑑賞したり知見を深める機会を増やすことによって刺激を受け、自身の作品へのフィードバックに生かし、ひいては優れた舞台芸術作品の創造につながることを目的としている。今年度は、演劇分野では、劇団、本谷有希子の本谷有希子、劇団 Ugly ducklingの池田祐佳理と樋口美友喜、南船北馬一団の棚瀬美幸、三条会の関美能留、舞踊分野ではCo.山田うんの山田うんに対し、総額92万円の奨励金を付与した。

The Artistic Creativity Enhancement (ACE) Programs, which offer operating support to theater and dance companies on a multi-year basis through grants and priority use of Morishita Studio, are divided into two levels (basically three years for each level). The first level, Program I, is designed to support the young generation of artists whose activities are expected to make an impact on the fields of contemporary Japanese theater or dance in the future; Program II is for the further development of such significant companies who are expected to become active within the international performing arts community.

In 2004, the dance company **BATIK** was newly selected as an ACE Program I grantee. Additionally, the theater company **Yubiwa Hotel**, and dance company **Leni-Basso**, who completed their ACE I grant-receiving periods in 2003 and 2002 respectively, joined the Program II category. A total of ten companies were awarded support under these two programs in 2004.

BATIK is an all-female company that was founded in 2002 by choreographer/ dancer Ikuyo Kuroda. Within the Japanese contemporary dance scene where forms of artistic expression have become diversified, BATIK, a company founded upon ballet-techniques, has created works that shows its adherence to dance or to dancing. As the source of their works, cutaneous sensation plays an important role, and creation begins from facing the physical body that exists here and now and by pursuing the sensation of congruity - not in the abstract sense of the word but with a real, intense feeling of it - that arises from the very existence of the body. Kuroda, the artistic director of the company, has won many awards including the National Advisory Panel Award at the Yokohama Platform of the Rencontres Choreographiques Internationales de Seine-Saint-Denis in 2002; the Excellent Work Prize at the SPAC Dance Festival 2003, sponsored by Shizuoka Performing Arts Center; the Grand Prize and also the Audience Award at the Toyota Choreography Award in 2003; and the Performing Arts Award plus the Kirin Special Grant for the Dance at the Asahi Performing Arts Awards in 2004.

Among the grant recipients of the two programs, the following two completed their grant-receiving terms in 2004. The dance company Nibroll, a grantee of Program I, spent its three years working enthusiastically and extensively; as a result, they did an overseas tour as well as making a debut into the visual arts scene, and participated in a collaborative theater piece. Furthermore, **MONO**, which completed its term in Program II, became a successful major company within the contemporary theater scene in Japan. What was especially remarkable was the development of Hideo Tsuchida as a playwright and a director, who completed various projects during the company's grant-receiving term and whose works were adapted to film and translated into English.

Details on the activities of the grantees under this program during 2004 are listed in the following pages.

Furthermore, we started a new grant program this year as part of our scheme to support young promising artists — a program which encourages such artists to come into contact with works of art or to participate in workshops. By increasing opportunities to experience other artists' works and to enrich their knowledge, while also reflecting upon their own work, we hope to stimulate these young grant-recipients to create excellent works in the field of performing arts. For the first year of this program, a total of ¥920,000 were given as grants to the theater community including Yukiko Motoya of gekidan motoyayukiko, Yukari Ikeda and Miyuki Higuchi of Ugly duckling, Miyuki Tanase of Nansen Hokuba Ichidan, and Minoru Seki of Sanjyokai, and also to Un Yamada of Co. Yamada Un from the dance community.

2004年度より

From 2004

### 現代演劇・舞踊助成――芸術創造活動 |

助成対象4件/助成総額12,000,000円

#### **Contemporary Theater and Dance** — *Artistic Creativity* **Enhancement Program I**

4 Grantees/Total appropriations: ¥12,000,000



SHOKU-full version-, August 2004. photo: Koichiro Saito



Ikuyo Kuroda Photo: Keiko Sato

主宰: 黒田育代(振付家・ダンサー) 制作: 高樹光一郎

artistic director: Ikuyo Kuroda (choreographer, dancer)

producer: Koichiro Takagi non-t@dc4.so-net.ne.jp http://my-bb.com/batik/

#### ■ 継続助成対象期間

2004年度から2006年度まで

## ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日

金額:3,000,000円

スタジオ提供(2004年6月から2005年5月までの

期間):64日間

#### ■ 2004年度の主な活動

#### 【公演活動】

8月:トヨタコレオグラフィーアワード2003受賞者 公演『SHOKU-full version-』

10月:SIDANCE (Seoul International Dance Festival) 出場『SIDE B』

Dance Umbrella Festival (ロンドン) 出場『SIDE B』 **SHOKU-full version-**

12月: アイホールダンスコレクション vol. 37 BATIK/LUDENS合同公演『SIDE B』(兵庫)

#### 【その他】

2004年度朝日舞台芸術賞・キリンダンスサポート を受賞

## ■Grant-receiving term

From 2004 to 2006

## ■Details on support during fiscal year 2004

Fiscal year: April 1, 2004 – March 31, 2005 Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2004 till May

2005): 64 days

#### ■Major activities during fiscal year 2004 [Performances]

August: Premier of SHOKU–full version– in Tokyo (TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2003 Winner's Performance)

October: Performance of SIDE B at SIDANCE (Seoul International Dance Festival)

Performance of SIDE B, SHOKU-solo version- at Dance Umbrella London

December: Performance of SIDE B at AI HALL DANCE COLLECTION VOL.37 in Hyogo

[Other] Kuroda receives Performing Arts Award and

Kirin Special Grant for the Dance at The Asahi Performing Arts Awards 2004

2003年度より From 2003



A scene from performance of The Night Pot in Kitakyushu (Fukuoka), September 2004. Photo by Yasushi Eguchi



Peter Goessner

主宰:ペーター・ゲスナー (演出家) 制作: 五島朋子

artistic director: Peter Goessner (director) producer: Tomoko Goto QWD00744@nifty.ne.jp http://www.uzume.org

#### ■ 継続助成対象期間

2003年度から2005年度まで

## ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日

金額:3,000,000円

スタジオ提供 (2004年6月から2005年5月までの

期間):14日間

#### ■ 2004年度の主な活動

#### 【公演活動】

9月:第15回うずめ劇場公演『夜壺』 福岡公演およ

び第16回カイロ国際実験演劇祭招聘公演

11月: 『夜壺』東京公演(森下スタジオ)

3月:第16回うずめ劇場公演『ねずみ狩り』 福岡公

#### 演 【その他】

1. 11月日本演劇学会2004年秋の研究集会シンポジウム「アジア演劇の視座」にゲスナーがパネリストとして参加

2. 唐十郎『夜壺』英訳およびアラビア語訳 3. 3月「うずめ新聞」発行

## ■Grant-receiving term

From 2003 to 2005

## ■Details on support during fiscal year 2004

Fiscal year: April 1, 2004 – March 31, 2005 Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2004 till May

2005): 14 days

## ■Major activities during fiscal year 2004 [Performances]

September: Performances of Kara Juro's *The Night Pot* in Fukuoka and at The 16th Cairo International Festival for Experimental Theater November: Performances of *The Night Pot* at Morishita Studio in Tokyo

March: Performances of Peter Turrni's Shooting Rats in Fukuoka

#### [Other projects]

1.November: Goessner participates as a panelist in a symposium on Asian theater at the 2004 autumn meeting of the Japanese Society for Theatre Research

- 2. Translation of Kara Juro's *The Night Pot* into English and Arabic
- 3. March: Publishing of the company's newsletter *Uzume Shimbun*

#### 2003年度より From 2003



From the performance of FLOWER PICKING in Stockholm, August 2004. Photo: Defyra



Chie Ito Photo: David Duval-Smith

主宰: 伊藤千枝 (振付家・ダンサー) 制作: 大桶 真

artistic director: Chie Ito (choreographer, dancer)

producer: Makoto Oooke mail@strangekinoko.com http://www.strangekinoko.com

## ■ 継続助成対象期間

2003年度から2005年度まで

#### ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日

金額:3,000,000円

スタジオ提供(2004年6月から2005年5月までの

期間):80日間

## ■ 2004年度の主な活動

#### 【公演活動】

8月:『FLOWER PICKING』 ストックホルム公演 10月:『FLOWER PICKING』 愛知、富山公演

3月:新作『家まで歩いてく。』埼玉公演

【その他】

ワークショップ、振付、出演など多数。

## **■**Grant-receiving term

From 2003 to 2005

## ■Details on support during fiscal year 2004

Fiscal year: April 1, 2004 – March 31, 2005 Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2004 till May

2005): 80 days

#### ■Major activities during fiscal year 2004 [Performances]

August: Performances of FLOWER PICKING in

Stockholm

October: Performances of *FLOWER PICKING* in Aichi and Toyama

March: Premiere of I'm walking to my home in Saitama

## [Other projects and events]

Workshops, choreography for other projects,

etc.



Dry Flower in New York, November 2004. Photo: Satomi Shirai



Mikuni Yanaihara

主宰: 矢内原美邦(振付家・ダンサー) 制作: 伊藤剛

artistic director: Mikuni Yanaihara (choreographer, dancer) producer: Takeshi Ito info@nibroll.com http://www.nibroll.com/

## ■ 継続助成対象期間

2002年度から2004年度まで

## ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日

金額:3,000,000円

スタジオ提供(2004年6月から2005年5月までの

期間):33日間

## ■ 2004年度の主な活動

#### 【公演活動】

7月:トヨタコレオグラフィーアワードに矢内原が

8月:『NOTES』東京公演、Laokoon Festival 参加

公演(ハンブルク)

11月:『Dry Flower』ニューヨーク公演

## 【その他】

9月:上海ビエンナーレに『Dry Flower』映像イン

スタレーションにて参加

1月:遊園地再生事業団と演劇『東京/不在/ハム

レット』を共同制作

## ■Grant-receiving term

From 2002 to 2004

## ■Details on support during fiscal year 2004

Fiscal year: April 1, 2004 – March 31, 2005 Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2004 till May

2005): 33 days

#### ■Major activities during fiscal year 2004 [Performances]

June: Yanaihara presents NOTES at the Toyota

Choreography Award 2004

August: Performances of NOTES in Tokyo and at the Laokoon Festival in Hamburg

November: Performance of Dry Flower in New York

#### [Other projects and events]

September: Visual Installation of *Dry Flower* at the Shanghai Biennale exhibition January: Collaboration work of Tokyo/ Fuzai/Hamlet with the theater company Yuenchisaiseijigyoudan in Tokyo

#### 現代演劇·舞踊助成——芸術創造活動 ||

助成対象6件/助成総額18,000,000円

**Contemporary Theater and Dance** — *Artistic Creativity* **Enhancement Program II** 

6 Grantees/Total appropriations: ¥18,000,000

指輪ホテル [演劇/東京] Yubiwa Hotel [theater/Tokyo]

2004年度より From 2004



A scene from Lear in Tokyo, July 2004.



Shirotama Hitsujiya Photo: Masahiko Taniguchi

主宰: 羊屋白玉(劇作家・演出家・俳優) 制作: 上田茂

artistic director: Shirotama Hitsujiya (playwright, director, and actor) producer: Shigeru Ueda reception@yubiwahotel.com http://www.yubiwahotel.com

#### ■ 継続助成対象期間

2004年度から2006年度まで

#### ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日

金額:3.000.000円

スタジオ提供(2004年6月から2005年5月までの

期間):27日間

#### ■ 2004年度の主な活動

#### 【公演活動】

5月:『It's Up To You~赦されざる乙女たち』 埼 玉公演、『指輪ホテル 星空レビュー』東京公演 7月:岸田理生作品連続上演参加作品『リア』東京

#### 公演 【その他】

1月: 『SNAKE』 埼玉公演 (羊屋白玉による演出)

## 【ワークショップ講師活動】

8月: 「ソロ(孤独)はおんなの原点」東京・森下ス タジオ、演出者協会主催「演劇大学in札幌」 10月:青年団・アゴラ劇場主催「日韓合同ワーク ショップ」

1月:演出者協会主催「演劇大学in横浜」

## ■Grant-receiving term

From 2004 to 2006

#### ■Details on support during fiscal year 2004 Fiscal year: April 1, 2004–March 31, 2005

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2004 till May

2005): 27 days

#### ■Major activities during fiscal year 2004 [Performances]

May: Performance of It's Up To You – The Unforgiven Girls – in Saitama, The Starry Sky revue in Tokyo

July: Performance of Lear written by Rio Kishida in Tokyo

#### [Other projects]

January: Performance of SNAKE directed by Hitsujiya in Saitama



A scene from Ghostly Round, February 2005. Photo: Ayako Nagatsuma



Akiko Kitamura photo: Ayako Nagatsuma

主宰: 布施龍一 芸術監督: 北村明子(振付家・ダンサー)

executive director: Ryuichi Fuse artistic director: Akiko Kitamura (choreographer,

http://www.leni-basso.com/

dancer) ryuichi\_fuse@leni-basso.com

#### ■ 継続助成対象期間

2004年度から2006年度まで

#### ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日

金額:3,000,000円

スタジオ提供(2004年6月から2005年5月までの

期間):68日間

#### ■ 2004年度の主な活動

#### 【公演活動】

8月:『Finks』 スウェーデン公演

2月:新作『Ghostly Round』長野、東京公演

3月:『Finks』 カナダ・アメリカツアー、マレーシア

公演

#### 【海外共同製作】

9月:The Group Motion Multimedia Dance Theater委嘱作品のためフィラデルフィアに滞在 【その他】

8月:東京芸術見本市出展

11月: モントリオールの芸術見本市CINARSに出

5月-11月:都内でワークショップ

## ■Grant-receiving term

From 2004 to 2006

## ■Details on support during fiscal year 2004

Fiscal year: April 1, 2004–March 31, 2005 Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2004 till May

2005): 68 days

#### ■Major activities during fiscal year 2004 [Performances]

August: Performances of Finks in Sweden February: Performances of Ghostly Round in Nagano and Tokyo

March: Finks 2005 US-Canada Tour and Malaysia

#### [International Collaboration]

September: Residential Collaboration with the Group Motion Multimedia Dance Theater in Philadelphia

#### [Other Activities]

August: Presentation at Tokyo Performing Arts Market 2004

November: Presentation at CINARS 2004 May-November: Workshops in Tokyo

2003年度より From 2003



From the performance of *Uchiyamatsuri* in Osaka, November 2004. Photo: Eiji Shirasawa



Shigefumi Fukatsu Photo: Ryuzo Ishikawa

主宰:深津篤史(劇作家・演出家)

制作: 長谷川一馬

artistic director: Shigefumi Fukatsu (playwright,

director)

producer: Kazuma Hasegawa caw75100@pop21.odn.ne.jp

http://www.geocities.co.jp/Hollywood/5931

#### ■ 継続助成対象期間

2003年度から2005年度まで

#### ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年1月1日-12月31日

金額:3,000,000円

### ■ 2004年度の主な活動

#### 【公演活動】

5月:『中野金属荘、PK戦』兵庫公演

6月:『中野金属荘、PK戦』東京公演

9月:番外企画・観客参加エチュード大阪公演『決 められない三人』、国際演劇交流セミナー2004(大 阪)ドラマリーディング『ローズィの食卓』(リック・ シオミ作)

11月:『熱帯夜』『うちやまつり』2作連続公演(大

12月:2004年アジア演劇祭in関西参加公演『熱 帯夜』『うちやまつり』2作連続上演(兵庫)

#### **■**Grant-receiving term

From 2003 to 2005

## ■Details on support during fiscal year 2004

Fiscal year: January 1-December 31, 2004

Grant: ¥3,000,000

#### ■Major activities during fiscal year 2004 [Performances]

May: Nakanokinzokusou, PKsen premiered in Hyogo

June: Performance of Nakanokinzokusou, PKsen

September: Performance of *Three Persons* ... Who Cannot Decide and drama reading of Rick

Shiomi's Rosie's Café in Osaka November: Performances of Nettaiya and

Uchiyamatsuri in Osaka

December: Performances of Nettaiya and

*Uchiyamatsuri* in Hyogo



A scene from Against Newton, Hyogo, November 2004.



Takiko Iwabuchi Photo: Yoichi Tsukada

主宰:岩淵多喜子 (振付家・ダンサー) artistic director: Takiko lwabuchi (choreographer, dancer)

dt\_ludens@hotmail.com

http://members.tripod.co.jp/ludens/

#### ■ 継続助成対象期間

2003年度から2005年度まで

#### ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日

金額:3,000,000円

スタジオ提供 (2004年6月から2005年5月までの

期間):121日間

## ■ 2004年度の主な活動

#### 【公演活動】

4月: 『Be』 ペンシルバニア公演&ワークショップ

5月: 『Be』 滋賀公演&ワークショップ

7月: 『Be』 インドネシア公演 (インドネシアダンスフェスティバル参加)

9月:『Distance』神奈川公演

11月:『Be』 岡山・長崎公演(JCDN主催「踊りにいくぜ!!」 参加)、『Against Newton』 兵庫公演

【ワークショップ】

8月:夏季ワークショップ

10月:2日間集中秋季ワークショップ

12月:冬季ワークショップ

1月:スペシャルワークショップ

3月:春季スペシャルワークショップ

## ■Grant-receiving term

From 2003 to 2005

#### ■Details on support during fiscal year 2003

Fiscal year: April 1, 2004–March 31, 2005

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2004 till May

2005): 121 days

## ■Major activities during fiscal year 2003 [Performances]

April: Performances of Be and workshop in

Pennsylvania

May: Performances of Be and workshop in Shiga

July: Performances of *Be* in Indonesia September: Performances of *Distance* in

Kanagawa

November: Performances of *Be* in Okayama and Nagasaki; performance of *Against Newton* in Hyogo

#### [Workshops]

August: Summer Workshops at Morishita Studio October: Two-day intensive workshop at

Morishita Studio

December: Winter workshop at Morishita Studio January: Special workshop at Morishita Studio March: Spring Workshop at Morishita Studio Idevian Crew /days [dance/Tokyo]

2003年度より From 2003



From the premiere of Kankeisha Deluxe in Tokyo, December 2004. Photo: Tsukasa Aoki



Shigehiro Ide Photo: Toyohiro Hasegawa

主宰: 井手茂太 (振付家・ダンサー)

制作:坪井香保里

artistic director: Shigehiro Ide (choreographer,

dancer)

producer: Kahori Tsuboi days@idevian.com http://www.idevian.com

#### ■ 継続助成対象期間

2003年度から2005年度まで

#### ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日

金額:3,000,000円

スタジオ提供 (2004年6月から2005年5月までの

期間):30日間

#### ■ 2004年度の主な活動

#### 【公演活動】

-12月:『関係者デラックス』 東京公演

#### 【ダンサー企画】

6月:『ヒメゴとアソビ』(斉藤美音子振付)兵庫公演

8月:斎藤美音子ワークショップ(東京)

9月:『はぎ子別館』 (菅尾なぎさ振付) 東京公演

1月: 菅尾なぎさワークショップ・ショーイング (東京)

#### 【井手茂太による活動】

5月:劇団ダンダンブエノ『バナナが好きな人』振付 8月:ミュージカル『Pippi』(宮田慶子演出)振付、 ワークショップ

12月: 『忠臣蔵』 (宮城聰演出) 振付 1月: 『城』 (松本修演出) 振付 3月: 『ルル』 (白井晃演出) 振付など

#### **■**Grant-receiving term

From 2003 to 2005

#### ■Details on support during fiscal year 2003

Fiscal year: April 1, 2004–March 31, 2005

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2004 till May

2005): 30 days

## Major activities during fiscal year 2003

[Performances]

December: Premiere of Kankeisha Deluxe in Tokyo

[Projects by Company Dancers]

June: Himego to Asobi choreographed by

Mineko Saito in Tokyo

August: Mineko Saito Workshop in Tokyo September: Performance choreographed by

Nagisa Sugao in Tokyo

January: Nagisa Sugao Workshop and Showing at Morishita Studio

#### [Projects by Shigehiro Ide]

May: Choreographs *Banana ga Sukina Hito*August: Choreographs *Pippi* (directed by Keiko

Miyata) and conducts workshop

December: Choreographs *Chushingura* (directed by Satoshi Miyagi)

January: Choreographs *Das Schloss* (directed by Osamu Matsumoto)

March: Choreographs *Lulu* (directed by Akira Shirai) etc.

#### 2002年度より From 2002



A scene from the performance of Soutaiteki-Ukiyoe in Tokyo, December 2004. Photo: Masahiko Yakoh



Hideo Tsuchida Photo: Toshihiro Shimizu

主宰:土田英生 (劇作家・演出家・俳優) 制作: 垣脇純子

artistic director: Hideo Tsuchida (playwright, director, actor) producer: Junko Kakiwaki info@c-mono.com http://www.c-mono.com

#### ■ 継続助成対象期間

2002年度から2004年度まで

#### ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日 金額:3,000,000円

#### ■2004年度の主な活動

【公演活動】

5月: 壁ノ花団第一回公演 『壁ノ花団』 京都公演 12月:MONO『相対的浮世絵』福岡、兵庫、愛知、 静岡、東京公演

### 【その他】

7月: 『一初恋』 戯曲英訳完成

9月: 主宰 · 土田英生、文化庁新進芸術家留学制 度で研修を行っていたロンドンより帰国

12月:映画『約三十の嘘』(原作・脚本:土田英生) 公開、小説版『約三十の嘘』刊行

## **■**Grant-receiving term

From 2002 to 2004

#### ■Details on support during fiscal year 2003 Fiscal year: April 1, 2004-March 31, 2005

Grant: ¥3,000,000

#### ■Major activities during fiscal year 2003 [Performances]

May: Performance of Kabenohana-dan in Kyoto by Kabenohana-dan

December: Premiere of Soutaiteki-Ukiyoe in Fukuoka, Hyogo, Aichi, Shizuoka, and Tokyo

[Other projects and events] July: Translation of First Love into English

September: Tsuchida completes his one-year residency in London as a fellow under the Japanese Government's Overseas Study Program for Artists Program

December: Premiere of the film Yaku Sanjhu no Uso, written and adapted to the screen by Hideo Tsuchida; novelization of the play is published.

### 特別助成(国内)【非公募】 助成対象2件/助成総額1,000,000円

2003年度に引き続き、詩人・草野心平 (1903~1988) の生誕100周年を記念して**草** 野心平日記刊行会が実施した、氏の日記110冊を7巻にわたって刊行する事業の2年目に対して助成を行った。

また、歌曲作品の作曲家として知られている山田耕筰による、音楽史上珍しいジャンルとされる舞踊詩(創作舞踊のための音楽)を、H・アール・カオスの大島早紀子の振付と白河直子らの踊りを取り入れて一世紀ぶりに上演する日本楽劇協会主催公演「山田耕筰の遺産~よみがえる舞踊詩~|を支援。

草野心平日記刊行会 草野心平日記 全7巻刊行 2004年5月12日—2005年5月12日 東京 500,000円

日本楽劇協会 山田耕筰の遺産 ~よみがえる舞踊詩~ 2004年7月3日 東京(東京文化会館大ホール) 500,000円

# Special Project Support Program (national) [designated fund program] 2 Grantees/Total appropriation: ¥1,000,000

Following the grant made in 2003 for its first year, a grant was awarded to the second year of a publishing project by **The Shimpei Kusano Diary Publishing Society**, an organization dedicated to publishing the 110 diaries of Shimpei Kusano (1903-1988) in seven volumes to celebrate the centennial of the poet's birth.

Additionally, the Japan Music-Drama Society received a grant for organizing the performance of a choreographic-poem — music that is composed specifically for modern dance and a rare genre within music history — by the famed Japanese composer Kousaku Yamada (1886-1965) for the first time in a century, which included dance pieces choreographed by Sakiko Oshima of H Art Chaos and performed by the company's dancer Naoko Shirakawa.

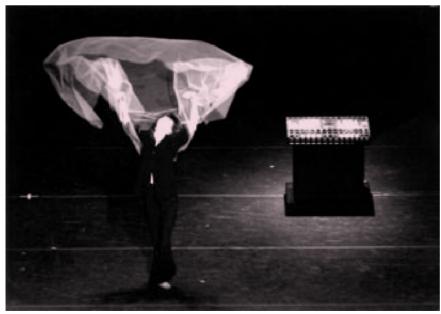
Japan Music-Drama Society Rejuvenation of Kousaku Yamada's Choreographic-Poem work July 3, 2004

Tokyo (Tokyo Metropolitan Festrival Hall – Large Hall)

¥500,000

Kusano Shinpei's Diary Publishing Society Publication of Kusano Shimpei's Diary in 7 Volumes

May 12, 2004 – May 12, 2005 Tokyo ¥500,000



A scene choreographed by Sakiko Oshima and performed by Naoko Shirakawa of H Art Chaos for a choreographic-poem work composed by Kousaku Yamada, Tokyo, July 2004.

## 現代演劇·舞踊助成 知的交流活動助成対象2件/助成総額1,600,000円

国際会議・シンポジウムの開催、翻訳出版などを通して日本の現代演劇・舞踊芸術の国際化を促進する事業に対して助成をする本プログラムでは、今年度2件の事業に対して助成した。

日露演劇会議が実施したロシア国立オム スク大学 [日本文化講座 | 開講講義 「現代日 本演劇文化史 は、将来日本文化科または日 本語科の開設を検討しているロシア国立オ ムスク大学の「日本文化講座」 開講に伴う講 師派遣事業。大学の他に8つの劇場とシベ リア最大の図書館のある同市は今後の日露 文化交流にとって重要な拠点になると考え、 一週間に亘って演劇評論家の村井健が日本 演劇に関する集中講義を行った。講義には 予想以上の受講者が集まり、最終日には試 験を実施。その結果も非常に良く、学生たち の意欲を感じたという。次年度には、本講座 をオムスク大学と同市の国立教育大学との 連携にし、さらに大学院でのマスタークラス も設けたいとの申し出がでており、継続的な 日本の現代演劇紹介の機会となりそうだ。

### ラオコオン世界演劇祭シンポジウム

「Transnational/Intranational—Re-imaging the Boundaries」は、ハンブルクにある劇場、カンプナーゲルが主催するサマーフェスティバルに関連して、2002年から2004年まで、芸術監督に鴻英良が就任したことを機に開始された三回シリーズのシンポジウム。今回は、招聘作品と密接な関係をとりながら、国民国家や紛争地帯の内部において、何が具体的に問われているのかを芸術実践

## 国際交流プログラム International Programs

## 1. 知的交流 Intellectual Exchange Programs

との関わりの中で取り上げ、ナショナリズム や原理主義を回避するために演劇に何が出 来るのかをテーマに二日間にわたり実施され た。加えて、任期の最終年度を迎えた鴻英 良がクロージング・レクチャー「フェスティ ヴァルにおける批評家の使命|を行った。パ ネリストは、フェスティバルからはレバノンの 演出家ラビーウ・ムルウェ、フィリピンの演出 家・パフォーマーのミデオ・クルツ、研究者 /批評家としてクロアチアのマリン・ブラジェ ヴィチ、在ベルリンのイラク人ラミース・エ ル・アマーリ。日本からは演劇評論家の内野 儀、森山直人、それに在ハンブルクの多和 田葉子、他にパリ在住のパキスタン人の演 出家エイブラヒム・クライーシなどが参加し た。シンポジウムの記録は一部、『舞台芸術』 七号(京都舞台芸術研究センター刊)に採録 されている。

Kampnagel, Hamburg ラオコオン世界演劇祭シンポジウム「トランスナショナル・イントラナショナル」 2004年8月11日—8月28日 ハンブルク (カンプナーゲル) 1,000,000円

### 日露演劇会議 ロシア国立オムスク大学「日本文化講座」開講講 義「現代日本演劇文化史」の実施 2004年5月17日-5月24日 オムスク(ロシア国立オムスク大学)

Contemporary Theater and Dance — Intellectual Exchange Program

600.000円

2 Grantees/Total appropriations: ¥1,600,000

The aim of this program is to improve the visibility of contemporary Japanese theater and dance within the world's performing arts community by supporting international conferences, symposia, and translation and publishing projects related to the above two fields of performing arts. In 2004, the program supported two projects that took place outside of Japan.

The first project was an intensive course on the cultural history of contemporary Japanese theater, which the Japan Russia Theatre Forum was commissioned by the National Omsk University in Russia for the start of their new Japanese Cultural Studies course. Theater critic Ken Murai gave the weeklong intensive course at Omsk, a city that has eight theaters and the largest library in Siberia and considered to become a significant location for Russo-Japanese cultural exchange in the near future. The number of students who took the course surpassed the estimated figure. An exam was given at the end of the course, which the results turned out to be extremely well, and Murai commented that he felt the students who attended the course were highly motivated. The university has proposed to co-organize the successful course with the city's Teachers' College in 2005 and establish a master class as well, and, consequently, the course has evolved into a multi-year project for presenting contemporary Japanese theater to Russia.

Another project was a symposium that was held in part of the **Laokoon Summer Festival 2004** at the Kampnagel arts center in Hamburg entitled *Transnational/Intranational — Re-imaging the Boundaries*,



Symposium at the Laokoon Summer Festival at Kampnagel, Hamburg, entitled Transnational/Intra-national. August 2004.



Theater critic Ken Murai (left) lecturing at a course on the history of modern Japanese theatre at National Omsk University, Russia, organized by Japan Russia Theatre Forum, May 2004.

which was part of a series of three symposia from 2002 to 2004 that began when Japanese theater critic Hidenaga Otori became the festival's artistic director. At the two-day symposium in 2004, which was closely related to the works invited to the festival, the participants discussed what theater may do to avert nationalism and fundamentalism by taking up actual problems being argued among nation states or the hot spots in the world within the context of actual practice of the arts. Additionally, Otori gave a closing lecture in his final year as artistic director entitled The Mission of The Critic Within a Festival. The panelists who participated in the symposium were as follows: (from the festival) Lebanese director Rabih Mroué, Philippine director and performer Mideo Cruz, Croatian researcher and critic Marin Blazevic. and Prof. Dr. Lamice El-Amari, originally from Iran and currently based in Berlin; (from Japan) theater critics Tadashi Uchino, Naoto Moriyama, and Hamburg-based writer Yoko Tawada; and Paris-based director Ibrahim Quraishi of Pakistan. Part of the symposium has been documented in the seventh issue of the Japanese magazine Butai-Geijutsu (Performing Arts), published by Kyoto Performing Arts Center.

Kampnagel, Hamburg Symposium at the Laokoon Summer Festival: *Transnational/Intra-national* August 11 – August 28, 2004

August 11 – August 28, 200 Hamburg (Kampnagel) ¥1,000,000

Japan Russia Theatre Forum History of Modern Japanese Theatre Course at National Omsk University, Russia May 17 – May 24, 2004 Omsk (Omsk State University) ¥600,000

## 翻訳出版助成【非公募】 助成対象2件/助成総額2,300,000円

日本の社会科学および人文科学などに関する文献を海外に継続的に紹介する活動を 支援する本プログラムではドイツとイタリア での翻訳出版事業に助成が行われた。

ミュンヘンに拠点を置く出版社ユディツィウム社 (iudicium Verlag GmbH) は、当財団の助成を受けて1999年度から2003年度までの5年間にわたって日本の社会科学、人文科学の著作をシリーズとしてドイツ語に翻訳出版し、2004年度からは3年間にわたる第2期が開始された。初年度には森嶋通夫著『日本にできることは何か』と久保田展弘著『日本多神教の風土』の翻訳出版に着手し、前者は2005年末、また後者は2006年の春に刊行予定。さらに第1期に翻訳作業が開始され、2004年度以降に出版されたのは辻井喬著『伝統の創造力』、今後出版を控えているのが井筒俊彦著『意識と本質』。

今年度はさらにイタリアのミラノにある出版 社メデューサ社 (Associazione Medusa Arte e Cultura) による多木浩二著『天皇の 肖像』のイタリア語への翻訳出版事業に対し ても助成を行った。

iudicium Verlag GmbH 日本の現代社会に関する著書2冊を独語への翻 訳出版

2004年4月1日-2005年3月31日 ミュンヘン 2,000,000円

Associazione Medusa Arte e Cultura 多木浩二著『天皇の肖像』伊訳出版 2004年9月1日-2005年4月30日 ミラノ 300,000円

**Translation/Publication Project Program** [designated fund program] 2 Grantees/Total appropriations: ¥2,300,000

This program provides financial assistance to multi-year projects aimed to introduce Japanese social science and humanities to other languages and cultures. In 2004, grants were awarded to translation

and publishing projects that took place in Germany and in Italy.

iudicium Verlag GmbH, a publishing company based in Munich, completed a five-year series to translate and publish works of social science and humanities by Japanese authors from 1999 to 2003 with the support from the Saison Foundation, and started a new three-year series from 2004. In first year of the second series, translation on Michio Morishima's What Can Japan Do and Nobuhiro Kubota's The Japanese Climate of Polytheism began. The books are scheduled for publication at the end of 2005 and the spring of 2006 respectively. Meanwhile, from the first translation series. Takashi Tsuiji's The Creative Power of Tradition was brought out in 2005 and Toshihiko Izutsu's Consciousness and Reality will be published soon.

Furthermore, a grant was awarded to **Associazione Medusa Arte e Cultura** of Milan for the Italian translation of Koji Taki's *Il ritratto dell'Imperatore* (The Portrait of The Emperor).

Associazione Medusa Arte e Cultura Publishing of the Italian version of *The Portrait of the Emperor* 

September 1, 2004 – April 30, 2005 Milano ¥300,000

IUDICIUM Verlag GmbH Translation and publishing of two books on contemporary Japanese society into German April 1, 2004 – March 31, 2005 Munich ¥2,000,000



Cover of a book by Takashi Tsujii published by iudicium Verlag GmbH of Munich.

## 国際交流プログラム International Programs

## 2. 芸術交流 Artistic Exchange Programs

# 現代演劇・舞踊助成 — 芸術交流活動I: プロジェクト支援

助成対象4件

このプログラムでは、国際間での相互理解を推進する日本の現代演劇・舞踊の海外公演、招聘受け入れ公演、国際共同創造事業に対して、森下スタジオの貸与を行っている。

今年度は、シンガポールを拠点に欧米を中心に活躍するオン・ケンセンが森下スタジオに2ヶ月弱滞在し、TheatreWorks' Residency at Morishitaを実施した。滞在期間中、海外で発表予定の作品創作・研究の他、二回にわたるパブリックトーク、日本の現代芸術の分野で活躍する若手アーティストのリサーチ、インタビューなどを行った。

日本国際パフォーマンス・アート・フェスティ バル (日本) 実行委員会による第9回ニパフ・ アジア・パフォーマンス・アート連続展+第一 回アジア・パフォーマンス・アート東京会議で は、海外から9ヵ国9名のパフォーマーが参加。 ショーイングに加えて、今回は、初めてフェス ティバル参加者による会議が森下スタジオで 開催された。昼12時から夜の9時過ぎまで、 各国の芸術界の政治的、社会的状況や自身 の表現方法についてディスカッションが行わ れ、密度の濃い貴重な交流の機会となった。

その他、ダンスカンパニーの**コンドルズ**が、ニューヨーク、ポートランド公演のための稽古を行った。両都市とも既に数回の公演実績があり、今回は完売の日もあった。コンドルズの人気は高く、海外での公演実績を確実なものにしていることが窺える。

### ■海外公演

コンドルズ コンドルズ ノースアメリカンツアー 2004 2005年2月21日-3月6日 ニューヨーク、ポートランド(ジャパン・ソサエ ティー、Center for Cultural Exchange) スタジオ提供35日間 丹野賢一/NUMBERING MACHINE 丹野賢一/NUMBERING MACHINE アジア・ ヨーロッパ公演2004

諸事情により事業は中止。なお森下スタジオは使 用した。

スタジオ提供17日間

#### ■受入公演·会議

日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル (ニパフ)実行委員会

第9回ニパフ・アジア・パフォーマンス・アート連 続展十第1回アジア・パフォーマンス・アート東京 会議

2004年7月17日—8月3日 東京、愛知、京都、長野(森下スタジオ、スペース 楽、Art Complex 1928、ネオンホール) スタジオ提供5日間

#### ■共同創造活動/森下スタジオでのレジデンシー

TheatreWorks (Singapore) Ltd.
TheatreWorks' Residency at Morishita 2005年4月5日-5月10日 東京(森下スタジオ) スタジオ提供36日間



The members of Condors relaxing during their North American Tour.



Seiji Shimoda (center), Executive Committee Director of the Nippon International Performance Art Festival (NIPAF) and organizer of the 9th NIPAF Asian Performance Art Series + 1st Asia Performance Art Meeting, in Kyoto, Summer 2004. Photo: Makoto Kondo





TheatreWorks' Residency at Morishita, May 2005

#### Contemporary Theater and Dance — Creative Exchange Program (Studio Award)

4 Awardees

This program awards priority use of the rehearsal facilities at Morishita Studio to projects that will contribute to promoting mutual understanding between Japan and other cultures, such as international tours by contemporary Japanese theater and dance companies, performances in Japan by foreign performing artists, and international collaboration projects.

Among those who received an award from this program in fiscal year 2004, Ong Keng Sen, the artistic director of the Singaporean company **TheatreWorks**, who also spends much of his time working in Europe and the U.S., did a residency at Morishita Studio for about two months. During his stay, Ong carried out research and creation of his new work that will be produced outside of Japan while holding two public lectures as well as studying about and interviewing young Japanese contemporary artists.

A studio award was also given to the Nippon International Performance Art Festival (NIPAF) Executive Committee for its ninth NIPAF Asian Performance Art Series and first Asian Performance Art Meeting in Tokyo, in which nine performers from nine foreign countries participated. In addition to showings, a conference was held among the participants for the first time, which started from noon and ended at nine p.m. Issues such as the political and social climates in the arts in each participant's country and about their means of artistic expression were discussed during the conference, which turned out to be a

significant event of substantial exchange among the members.

Furthermore, the dance company **Condors** was also given a studio award for rehearsals in prior to their tour of New York and Portland, which are two cities they had performed in the past and were familiar with their work. Some of the shows during this tour were sold out, which indicates how the company has been building its reputation firmly abroad.

#### **■**Touring Projects

#### Condors

Condors North American Tour 2004 February 21 – March 6, 2005 New York, Portland (Japan Society, Center for Cultural Exchange) Studio Rental: 35 days

#### TANNO KEN'ICHI/ NUMBERING MACHINE TANNO KEN'ICHI/NUMBERING MACHINE Asian & European Tour 2004

\*This tour project was cancelled after the company held rehearsals at Morishita Studio. Studio Rental: 17 days

#### **■**invitational productions and meeting

Nippon International Performance Art Festival Executive Committee 9th NIPAF Asian Performance Art Series + 1st Asia Performance Art Meeting July 17 – August 3, 2004 Tokyo, Aichi, Kyoto, Nagano (Morishita Studio, Space RAKU, Art Complex 1928, Neon Hall) Studio Rental: 5 days

#### ■international collaboration projects/ residency at Morishita Studio

TheatreWorks (Singapore) Ltd.
TheatreWorks' Residency at Morishita
April 5 – May 10, 2005
Tokyo (Morishita Studio)
Studio Rental: 36 days

## 現代演劇・舞踊助成―芸術交流活動II:継続プロジェクト支援

助成対象2件/助成総額6,000,000円

2001年度から開始された本プログラムでは、国際交流の推進に中心的な役割を果たしているカンパニーに最長3年にわたって助成金が支給され、さらに森下スタジオ使用の優先権が付与される。今年度から対象事業を2年以上3年以内の継続プロジェクトに限ることとした。これは、国際交流事業にはワークショップやリサーチ、稽古期間を含めた入念な準備期間が必要であるという考えに基づいている。今年度は、2件を採択した。

劇団解体社による、国際コラボレーショ ン/『夢の体制』は、「世界の多様性を認識す ること|を目的に、2004年1月のイギリスでの ワークショップを皮切りに、ドイツ、日本、東 チモール、ヨルダンでワークショップを実施 した。その結果当初予定していたよりもはる かに多くのコラボレーターを選出することに なった。夏のワークショップは、ドイツの旧 共産圏に位置するブルーリン城で3週間にわ たって開催され、演出家の清水信臣がそれ まで10年間排除してきた「ことば」への興味 を再び呼び起こす機会となった。プロジェク トの初年度は、多様な出自を持つコラボレー ターたちと [対話] し続けることの重要性と困 難を痛感したという。2005年秋には、世界プ レミアとして公演が実施される予定だ。

舞踊資源研究所の国際共同制作ダンス・ プロジェクト[気配の探求]Ⅱ「森の微笑」は、 多国籍のダンサーとともに、都市の劇場では なく、人類共通の資源である場所「森」の中で人間の生命や気配の物語を紡ぎ出す試みである。セルビア・モンテネグロ、ロシア、ハンガリー、アメリカ、日本の5ヵ国のアーティストが参加、山梨県の白州で1~2ヶ月の共同生活を経て、東京・井の頭公園を使用して実施された。公園での舞台設営、稽古期間中は、公園を利用する多くの市民の目に創作のプロセスを晒すことになり、これまで現代舞踊に接点がなかった人々をダンスに巻き込む機会となったという。プロジェクトは、最終年度に神宮の森での上演ができることを希望している。許可の手続き上の問題で困難が多いということだが、実現を望みたい。

# Contemporary Theater and Dance Creative Exchange Program — For Long-Term Projects

2 Grantees/Total appropriation: ¥6,000,000

This program, which began in 2001, awards grants and priority use of Morishita Studio up to three consecutive years to Japanese performing artists/companies who are expected to play an important role in the field of international exchange. From 2004, the program has been limited to projects that will continue for more than two years and will be completed within three, since international exchange projects require much time in the preparatory stage that usually include workshops, research, and rehearsals. Two projects were given awards from this program in 2004.

The international collaboration project by **Gekidan Kaitaisha** called *Dream Regime*, a work to "to appreciate the diversi-

ties in the world," started from a series of workshops that began in the U.K. in January 2004, which then moved on to Germanv. Japan. East Timor, and to Jordan. Consequently, a much larger number of people were chosen to join the project than originally expected. The summer workshop took place for three weeks at Broellin Castle, a site located in a region of Germany that used to belong to the Communist bloc, which was an event that stimulated interest in language again within director Shinjin Shimizu, who had eliminated its use in his work during the past decade. In the first year of the project, Shimizu became keenly aware of the significance of maintaining dialogue with people from various backgrounds and its complexity. The world premiere of the work is scheduled in the autumn of 2005.

Dance Resources on Earth's In Search of Subtle Presence — The Smile of the Forest is an international dance collaboration project with dance artists from various countries to weave a tale of human life or "subtle presence" within a forest — a place that is a common resource for mankind instead of a theater in the city. Artists from Serbia-Montenegro, Russia, Hungary, the U.S., and Japan gathered and lived together for a couple of months in Hakushu in Yamanashi Prefecture, working on the piece that was performed later at Inogashira Park in Tokyo. Setting up the open-air stage and rehearsing in public exposed the creative process to the visitors of the park, which turned out to be a perfect occasion to get people involved, including those who had never had the chance to come into contact with contemporary dance. The dance company plans to stage the work in the forest of Meiji Jingu Shrine in Tokyo in the final year of the project. Although it seems that many difficulties lie in obtaining permission to perform on the grounds, we hope this plan will be realized.



A scene from Dream Regime #2 at Broellin Castle, Germany, September 2004. Photo: MIYAUCHI Katsu



Shinjin Shimizu

主宰:清水信臣 (演出家) 制作:秦 岳志 artistic director: Shinjin Shimizu company maneger: Takeshi Hata gekidan@kaitaisha.com/ http://www.kaitaisha.com/

#### ■ 継続助成対象期間

2004年度から2006年度まで

#### ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日

金額:3,000,000円

## ■ 2004年度の主な国際交流活動

『夢の体制』プロジェクト

ブルーリン城 (ブルーリン)、フリースペース・カン バス (東京)、アルテ・モリス (ディリ)、アラブ演劇 研修センター (アンマン)にてコラボレーション

#### **■**Grant-receiving term

From 2004 to 2006

■Details on support during fiscal year 2004 Fiscal year: April 1, 2004–March 31, 2005

Grant: ¥3,000,000

## ■Major activities during fiscal year 2004 [Dream Regime Project]

Collaboration at Broellin Castle (Broellin), Free Space CANVAS (Tokyo), Arte Moris (Dili), Arab Theater Training Center (Amman)



Outdoor performance of the International Dance Project < In Search of Subtle Presence > Work II, Smiles in the Forest, at Inogashira Park, September 2004. Photo: A7XY



Min Tanaka

主宰:田中泯制作:斎藤朋

artistic director: Min Tanaka company manager: Tomo Saito artcamp@sf7.so-net.ne.jp http://www.min-tanaka.com/

## ■ 継続助成対象期間

2004年度から2006年度まで

## ■ 2004年度の助成内容

年度:2004年4月1日-2005年3月31日 金額:3,000,000円

## ■ 2004年度の主な国際交流活動

国際共同制作ダンス・プロジェクト「気配の探求」 ||「森の微笑」および他公演、井の頭公園(東京)

#### ■Grant-receiving term

From 2004 to 2006

■Details on support during fiscal year 2004
Fiscal year: April 1, 2004–March 31, 2005
Grant: ¥3,000,000

#### ■Major activities during fiscal year 2004

International DanceProject <In Search of Subtle Presence> work II *Smiles in the Forest* & other performances at Inogashira Park(Tokyo)

### **芸術交流活動**【非公募】 助成対象2件/助成総額10,000,000円

本プログラムでは、海外の非営利団体と の継続的なパートナーシップによる日本文化 の紹介事業や文化交流活動を支援する。

当財団は1989年度より、ニューヨークに本部を置くアジアン・カルチュラル・カウンシル (ACC) が日米の芸術家、学者、専門家、機関のために行っている相互的フェローシッププログラム「日米芸術交流プログラム」に対して支援を行っている。2004年度には、当財団からの前年度の助成金が充当されて、振付家・舞踊家の田中泯および天野由起子、ビジュアルアーティストの名和晃平による渡航・滞在プロジェクトが実施された。なお、2004年度の助成金は、同交流プログラムの2005年度の助成対象に選ばれた日本の芸術家や専門家の渡航費用に充当される。

日本の現代演劇を紹介する5カ年プロジェクト「ジャパニーズ・シアター・ナウ」を1998年度から2002年度まで行ったニューヨークのジャパン・ソサエティーでは、2004年度より第2期を開始。初年度には劇作家・演出家の坂手洋二率いる燐光群による『屋根裏』をマイアミ、ピッツバーグ、ニューヨークで上演し、さらに坂手によるニューヨーク市立大学大学院やカリフォルニア大学でのディスカッションなどの関連イベントを開催した。

アジアン・カルチュラル・カウンシル 日米芸術交流プログラム (2005年度の活動に充 当)

2005年1月1日-12月31日 アメリカ各地 7,000,000円

ジャパン・ソサエティー ジャパニーズ・シアター・ナウ (第II期) RINKO-GUN Theater Company in Yaneura 2005年2月4日—2月14日 マイアミ、ピッツバーグ、ニューヨーク (マイアミ・ ライト・プロジェクト、ピッツバーグ大学、ジャパ ン・ソサエティー、カリフォルニア州立大学) 3.000.000円

## **Artistic Exchange Project Program**

[designated fund program]

2 Grantees/Total appropriation: ¥10,000,000

This program awards grants to projects by non-profit organizations outside of Japan with a solid and continuing relationship with the Saison Foundation that are devoted to introducing Japanese culture within their societies

Since 1989, the Saison Foundation has given support each year to the New York-based **Asian Cultural Council's** (ACC) Japan-United States Arts Program, an interactive fellowship program for U.S. and Japanese artists, scholars, specialists, and institutions. In 2004, the grant awarded to this program the year before was appropriated to the travels by choreographers/dancers Min Tanaka and Yukiko Amano and visual artist Kohei Nawa. The Saison Foundation's grant made in 2004 will be appropriated to the travel expenses of Japanese artists and specialists chosen as

grant recipients of the ACC's interactive fellowship program in 2005.

From 2004, the Japan Society of New York began a second series of Japanese Theater NOW, a program that was originally run for five years from 1998 to 2002 and focused on the new generation of Japanese theater artists to provide North American audiences with a significant and sustained exposure to contemporary Japanese theater and culture. The second five-year program was launched with a tour by Rinkogun, the theater company led by playwright/director Yoji Sakate, with its production of Yaneura (The Attic) to Miami, Pittsburgh, and New York, with lectures and related programs by Sakate at The City University of New York Graduate Center and at California State University in Northridge, CA.

#### Asian Cultural Council ACC Japan-United States Arts Program Fellowships

January 1 – December 31, 2005 (for activities taking place during 2005)
U.S., Japan
¥7,000,000

#### Japan Society, Inc. Theater Company Rinkogun in *Yaneura* (Attic)

February 4 – February 14, 2005 Miami, Pittsburgh, New York, Northridge (Miami Light Project, University of Pittsburgh, Japan Society, California State University) ¥3,000,000



A scene from Rinkogun's U.S. tour of *Yaneura*, organized by Japan Society, Inc., February 2005. Photo: William Irwin



Music From Japan 30th Anniversary Festival in New York, September 2004.

### 特別助成(国際交流)【非公募】 助成対象2件/助成総額1,500,000円

ニューヨークを拠点に日本の現代音楽を継続的に紹介しているミュージック・フロム・ジャパン・インクが設立30周年を記念して行った「伶楽と雅楽:現代に連なる伝統」と題する事業を支援。雅楽演奏団体の伶楽舎を招き、古典と現代の雅楽と伶楽の紹介、さらに正倉院復元楽器による演奏、作曲家の藤家渓子や吉川和夫による委嘱新作の世界初演、また京都造形芸術大学の木戸敏郎教授による講演と伶楽舎によるデモ演奏という教育プログラムも含まれ、ニューヨーク・タイムズ紙をはじめ、各都市で高く評価された。

また、エイゼンシュテイン・シネクラブ(日本)は、岐阜県の中津川映画祭の一環として中津川と東京で国際シンポジウム「世界の中の日本映画」を開催。フランスの評論家マルセル・マルタンと今泉幸子夫妻、ロシアの評論家ウラジミール・ドミトリエフ、中国の日本映画研究家の晏妃、また日本からは映画監督の高畑勲と岩波ホール総支配人の高野悦子が参加し、日本映画がこれまで諸外国でどのように受容されてきたか、今後日本映画は海外にどう進出すべきかなどについて話し合われた。

エイゼンシュテイン・シネクラブ (日本) 国際シンポジウム「世界の中の日本映画」 2004年10月12日-10月17日 岐阜、東京 (東美濃ふれあいセンター歌舞伎ホール、文京シビックセンター) 500,000円

ミュージック・フロム・ジャパン・インク ミュージック・フロム・ジャパン 創立30周年記 念音楽祭

2004年9月7日一9月12日 ニューヨーク、ワシントンDC、バークレー(ニュー ヨーク総領事公邸、カーネギー・ザンケルホール、 ケネディセンターテラス劇場、スミソニアン・フ リーア美術館、カリフォルニア州立大バークレー 校ハーツ・ホールなど) 1,000,000円

# Special Project Support Grant Program (international) [designated fund program] 2 Grantees/Total appropriation: ¥1,500,000

A grant was awarded to Music From Japan, Inc., a New York-based organization promoting contemporary Japanese music, which celebrated its thirtieth year by presenting a tour of reigaku and gagaku music (Japanese Imperial Court music) entitled Reigaku and Gagaku: A Living Tradition to three cities in the U.S. The tour, hailed by The New York Times, featured classical and contemporary works of the two court music styles, as well as the world premieres of works commissioned by Music From Japan to composers Keiko Fujije and Kazuo Kikkawa, which were performed by Reigakusha, a group of professional gagaku instrumentalists. The tour included an educational program on ancient Asian musical instruments used in those music styles from the Imperial Treasury of the Shoso-in by Professor Toshiro Kido of Kyoto University of Art and Design, plus demonstrations of a reconstructed instrument from the Imperial Treasury.

Another award was given to the Eisenstein Cine-Club (Japan), which organized an international symposium for the Nakatsugawa Film Festival held in Nakatsugawa (Gifu Prefecture) and in Tokyo, entitled Japanese Cinema in the World. French film critic Marcel Martin and his wife and film iournalist Yukiko Imaizumi. Russian film critic Vladimir Dmitriev, Japanese cinema researcher An Ni of China, Japanese film director Isao Takahata, and Etsuko Takano, general manager of Iwanami Hall in Tokyo participated in the event and discussed how Japanese cinema has been received in other countries in the past and the outlook on the future of this particular genre in the international community.

## Eisenstein Cine-Club (Japan) International Symposium *Japanese Cinema in the World*

October 12 – October 17, 2004 Gifu, Tokyo (Kabuki Hall, Bunkyo-ku Civic Center) ¥500,000

Music From Japan, Inc.

Music From Japan 30th Anniversary Festival September 7 – September 12, 2004

New York, Washington D.C., Berkeley (Japanese Consulate General's Residence, Carnegie Zankel Hall, Kennedy Center Terrace Hall, Freer Gallery, UC Berkeley Hertz Hall, etc.)

¥1,000,000

## ■森下スタジオのその他の利用者

(2004年6月2日-2005年5月31日)

利用団体名	利用日数
ACC (Alissa Cardone)	4
NPO法人 アートネットワーク・ジャパン	2
池内美奈子	5
伊藤キム十輝く未来	18
京都造形芸術大学舞台芸術研究センター	- 5
K・ダンスオフィス	14
コンタクト・インプロビゼーション・グループ (	C.I.co, 15
NPO法人 JCDN	1
S·O·L·O 1481367 Ontario Limited	1
株式会社ティーファクトリー	13
山の手事情社	7

## **■**Other users of Morishita Studio

(June 2, 2004 - May 31, 2005)

User name	number of days
Alissa Cardone	4
Contact Improvisation Group C.I	.co, 15
Minako Ikeuchi	5
Japan Contemporary Dance Net	work 1
KIM ITOH + the glorious future	18
KISANUKI DANCE OFFICE	14
Kyoto Performing Arts Center	5
NPO Arts Network Japan	2
S•O•L•O 1481367 Ontario Limit	ed 1
T factory Co., Ltd.	13
Yamanote Jijosha	7

## 1. 自主製作事業 **Sponsorship Program**

#### 制作実践セミナー 2004

舞台芸術の制作者の知識開拓を目的に、 不定期で実施しているセミナー。本年度は、 以下の3本を実施した。

1. 指定管理者制度はビジネスチャンス?

開催日:2004年9月13日 講師:小林真理(東京大学助教授) パネリスト: 市村作知雄 (NPO法人アートネッ トワーク・ジャパン 理事)、大野晃(神奈川県立

県民ホール 館長)、小林真理

2. ジャパニーズ・クールの波に乗る―マンガ、 アニメ、ゲームの海外戦略-

開催日:2004年10月4日

講師:小野打恵(株式会社ヒューマンメディア 代表取締役社長)

ゲスト: 村濱章司 (株式会社GDH 代表取締役

3. 美術界から学ぶ――新世代ギャラリストの戦略 とはー

開催日:2004年11月19日

講師:小山登美夫(小山登美夫ギャラリー オー **ナ**ー)

会場は、すべて国際交流フォーラム会議室

セゾンシアタープログラム 若手振付家育成プログラム/ネクスト・ネクス ト5 ダンス・ショーケース

次世代を担う若手振付家の育成紹介を目 的としたダンス・ショーケース「ネクスト・ネ クスト|を森下スタジオで開催。本公演は、 2000年から03年まで東京ガス都市開発(株) パークタワー・アート・プログラムとの共催で 実施していた企画の最終年度にあたる。今 年度は、単独主催で実施。最終年度にあた りプログラムも作成した。

若手振付家育成プログラム/ネクスト・ネクスト5

ダンス・ショーケース 開催日: 2004年12月17日 会場: 森下スタジオ 作品名および振付家:

「不完全スパイラる | 北村成美

「幸福の森の掟 | 鈴木ユキオ(金魚×10)

「レメクランラク」」康本雅子



From left to right: Mari Kobayashi, Akira Ohno, and Sachio Ichimura at the Arts Management Seminar entitled *Designated Management System for Local Public Halls* and Theaters - Is This A Business Opportunity for Private Performing Arts Companies?, September 2004.



Megumi Onouchi lecturing at the second Arts Management Seminar, Riding the Wave of Japanese Cool, October 2004.



Tomio Koyama at the third Arts Management Seminar, Learning from the Visual Arts World

#### アーテストサロン

「プロセスと作品 オン・ケンセン in Morishita

Studios |

開催日: 2005年4月16日、23日

会場: 森下スタジオ

4月16日(土)

内容: 【一部】 the Flying Circus Project (フラ

イング・サーカス)とその10年間の軌跡

について

【二部】山崎広太 (舞踊) のダンスとトー クー 『サンダカン挽歌』 『サーチ: ハム

レット について

4月23日(土)

内容: アジアのシェイクスピア三部作から近

作まで--岸田理生の思い出に

ゲスト: 西山美なコ(美術)、山中透(作曲家、 DJ、プロデューサー)、五條雅之助(日

本舞踊)

## ニュースレター『viewpoint』の刊行

セゾン文化財団のニュースレター『viewpoint』では、研究助成や海外留学、レジデ ンシーの成果など、当財団の助成・共催事 業に関連した論考、レポートを幅広く掲載し ている。発行部数は毎号1200部。芸術団体、 自治体、助成財団、マスコミ、大学、シンク タンク、研究者などに無料配布している。地



Masako Yasumoto



Yasuo Suzuki



Masako Yasumoto, Shigemi Kitamura, Yasuo Suzuki at the *Next Next* dance showcase at Morishita Studio, December 2004. Photos: Koichiro Saito

域における舞台芸術の振興、海外でのアーツマネジメント留学・研修、国際交流事業の成果や森下スタジオで実施された事業など、 当財団の助成・共催事業に関連した論考、 レポートを幅広く掲載。

#### 第29号(2004年7月発行)

- [シリーズ:世界の芸術文化助成・支援機関①] 台湾・財団法人国家文化芸術基金会について 財団法人国家文化芸術基金会資源開発部編
- 芸術振興政策における芸術NPOの意義 曽田修司(跡見学園女子大学 マネジメント学部 教授)
- ロンドンへの道・後編 野田秀樹(劇作家・演出家・俳優)
- 森下スタジオにおける活動報告
- 芸術分野海外研修サポートプロジェクトシンポ

ジウムVol.1 海外で学ぶ〜そのプロセスと成果 〜アーツマネージメント編

#### 第30号(2004年11月発行)

- 作品の成熟
- 川村 毅 (劇作家・演出家・T factory主宰)
- 〔シリーズ:世界の助成・支援機関②〕 ジャーウッドとは何か ロアンヌ・ドッズ (英ジャーウッド・チャリティ事 務局長)
- 日本の現代演劇をロシアへ――国立オムスク大学における日本文化講座 村井健(演劇評論家)

#### 第31号(2005年3月発行)

 ● [シリーズ:芸術文化助成・支援機関③] ロレックスの「メントー&プロトジェ アートプログラム」について レベッカ・アーヴィン (ロレックス メントー&プロトジェ アートプログラム兼ロレックス賞事務

#### 局長)

- 誤解から理解へ──俳優教育でいま求められているもの 川南 恵(舞台芸術コーディネーター/プロ
- 川南 恵 (舞台芸術コーディネーター/ブロ デューサー) ● コンタクト・インプロビゼーションって何?を
- C.l.co.的視点から 勝部ちこ (ダンサー、インプロバイザー、振付 家、C.l.co.代表)

#### **Arts Administration Seminar Series**

The Arts Administration Seminar Series offers performing art producers and managers opportunities to expand their knowledge. In 2004, the following three seminars were held.

#### 1. Designated Management System for Local Public Halls and Theaters — Is This A Business Opportunity for Private Performing Arts Companies?

Date: September 13, 2004

Lecturers: Mari Kobayashi, Associate Professor, Cultural Studies, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo; Akira Ohno, Director, Kanagawa Kenmin Hall; Sachio Ichimura, Director, NPO Arts

Network Japan

#### 2. Riding the Wave of Japanese Cool — The International Strategies of Manga, Anime, and Game

Date: October 4, 2004

Lecturers: Megumi Onouchi, President, Humanmedia Inc.; Showji Murahama,

Chairman, GDH K.K.

#### 3. Learning from the Visual Arts World — The Strategies of the New Generation Gallerists

Date: November 19, 2004

Lecturer: Tomio Koyama, Owner, Tomio

Koyama Gallery

Venue: All three seminars were held at a

conference room in the Tokyo Inter-

national Forum.

# Saison Theater Program — Young Dance Artists' Development Program: Next Next 5 dance showcase

Next Next is a showcase program for promising contemporary dance artists that had been co-sponsored by the Saison Foundation and the Park Tower Program of Tokyo Gas Urban Development Co., Ltd. from 2000 to 2003. In 2004, which was the final year of the five-year program, the Saison Foundation held the showcase on its own as a sponsorship program.

## Next Next 5 (a showcase of young dance artists' works)

Date: December 17, 2004 Venue: Morishita Studio

Participating artists: Shigemi Kitamura, Yukio

Suzuki, Masako Yasumoto

#### **Artist's Salon**

## Process and Product: Ong Keng Sen in Morishita Studios

Dates: April 16 and 23, 2005 Venue: Morishita Studio [April 16]

Topics: Part 1 — Journey into the process of The Flying Circus Project and its developments in the past decade Part 2 — Dance performance by Kota Yamazaki and discussions on the Sandakan Threnody and Search: Hamlet

[April 23]

Topics: From the Asian Shakespeare Trilogy to recent works — In memory of Rio

Kishida

projects

Guests: Minako Nishiyama, visual artist; Toru Yamanaka, composer, DJ, and producer; Masanosuke Gojo, Nihon Buyo (classical Japanese dance) master

#### **Publishing of viewpoint**

The Saison Foundation's newsletter *viewpoint* carries a wide range of reports and essays, including the results of the Foundation's research grants and the outcome of projects supported by the Foundation. Twelve hundred copies are published for each issue, which are circulated free of charge to art organizations, local governments, foundations, the press, universities, think tanks, researchers, etc.

#### Issue No. 29 (July 2004)

- Arts grant-making and supporting institutions in the world: 1. National Culture and Arts Foundation (Taiwan)
   by the Resource Development Department, National Culture and Arts Foundation
- The Significance of Arts NPOs (Non-Profit Organizations) within Arts Promotion Policies
  - by Shuji Sota, Professor, Faculty of Management, Atomi University
- The Path to London Part Three by Hideki Noda, Playwright, Director, and Actor
- scenes from Morishita Studio: report on the United Fellows for the Arts' first symposium Studying Arts Management at Overseas — Process and Outcome —

#### Issue No. 30 (November 2004)

- The Ripening of a Production by Takeshi Kawamura, Playwright, Director, Artistic Director of T factory
- Arts grant-making and supporting institutions in the world: 2. What is Jerwood? by Roanne Dods, Director, Jerwood Charity
- Introducing Contemporary Japanese Theater to Russia
   by Ken Murai, Theater Critic

#### Issue No. 31 (March 2004)

 Arts grant-making and supporting institutions in the world: 3. Rolex and the Mentor and Protégé Initiative
 by Rebecca Irvin, Programme Director, The

Rolex Mentor and Protégé Arts Initiative and The Rolex Awards for Enterprise

- From Misunderstanding to Understanding What is Required in Actor Training Programs Now
  - by Megumi Kawaminami, Performing Arts Coordinator and Producer
- What Contact Improvisation Is A Guide From the Persepective of C.I. co.
   by Chico Katsube, Dancer, Improviser, Choreographer, Director of C.I. co.

## 2. 共催事業 (セゾンシアタープログラム) Co-sponsorship Program (Saison Theater Program)

#### うずめ劇場 第15回公演『夜壺』

04年度芸術創造プログラム助成対象者による演劇公演。唐十郎の戯曲を東ドイツ出身の演出家ペーター・ゲスナーが上演。スタジオ内にテントを出現させた。本作品は9月にカイロ国際実験演劇祭でも上演。

期間: 2004年11月3日-6日 会場: 森下スタジオ

### 

90年代にフィリピンで別々に制作・上演された、ベッドルームを舞台とする3つの作品をフィリピンの俳優と共にオムニバス形式で上演。燐光群の『トーキョー裁判』『南洋〈じら部隊』に出演したフィリピン教育演劇協会(PETA)の俳優/戯曲家/演出家のロディ・

ヴェラをはじめ、計4名の俳優を招聘。燐 光群でこれまで演出助手を担当し、02年に 文化庁の在外研修員として一年間フィリピ ンで研修を行った吉田智久の初演出作品と なった。

期間: 2004年11月24日-29日

会場: 森下スタジオ





Two scenes from Rinkogun's *Philippine Bedtime Stories*, Morishita Studio, November 2004. Photo: Kariyuki Ohara

#### **The Night Pot by Uzume Theater**

A production of Juro Kara's play by Artistic Creative Enhancement Program grant recipient Uzume Theater, directed by the company's artistic director Peter Goessner. The production, which was also shown at the Cairo International Experimental Theatre Festival, was staged within a tent that was constructed within Morishita Studio.

Dates: November 3 - November 6, 2004

Venue: Morishita Studio

## Philippine Bedtime Stories by Theater Company Rinkogun

A compilation of three plays that take place in bedrooms, which were written and staged separately in the Philippines in the 1990s, staged as an omnibus production by Rinkogun with Philippine and Japanese actors. Four actors from the Philippines, including Philippine Educational Theater Association (PETA) actor, playwright, and director Rody Vera, who also appeared in past Rinkogun productions, The Tokyo Trial and Whalers in the South Seas, were invited to participate in the project. This production also marked the debut of Tomohisa Yoshida as a director, who was assistant director of the company and went to the Philippines for a year with a fellowship from the Japanese Agency for Cultural Affairs in 2002.

Dates: November 24 – 29, 2004

Venue: Morishita Studio

## 事業日誌

2004年4月—2005年3月

## **Review of Activities**

April 2004 – March 2005

2004年	
5月1日	森下スタジオリニューアル丁重 (5月31日すで)

6月15日 理事会開催(2003年度事業及び収支決算報告の件) 評議員会開催(2003年度事業及び収支決算報告の件)

6月24日 文化庁に2003年度事業及び収支決算報告書提出

7月25日 『viewpoint』第29号発行

9月13日 制作実践セミナー 2004 「指定管理者制度はビジネスチャンス?」

10月1日 2005年度《現代演劇·舞踊助成》募集開始

10月4日 制作実践セミナー 2004「ジャパニーズ・クールの波に乗る―マンガ、アニメ、ゲームの海外戦略――」

11月3日 セゾンシアタープログラム うずめ劇場 第15回公演『夜壺』(11月6 日まで/森下スタジオにて)

11月15日『viewpoint』第30号発行

11月19日 制作実践セミナー 2004 「美術界から学ぶ―新世代ギャラリスト の戦略とは――」

11月24日 セゾンシアタープログラム 燐光群演劇公演『フィリピン ベッドタ イム ストーリーズ』(11月29日まで/森下スタジオにて)

12月17日 2004年度《現代演劇・舞踊助成》申請締切

12月18日 若手振付家育成プログラム/ネクスト・ネクスト ダンス・ショー ケースを森下スタジオにて開催

#### 2005年

2月23日 2005年度審査会開催

3月16日 理事会開催(2005年度事業計画及び収支予算の件、評議員選出 の件)

評議員会開催 (2005年度事業計画及び収支予算の件、役員選出の件)

3月17日 2005年度助成決定発表

3月31日 文化庁に2005年度事業計画書及び収支予算書提出、『view-point』第31号発行

2004	
May 1	Refurbishment of Morishita Studio begins (till May 31)
June 15	Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2003)
	Board of Trustees Meeting in Tokyo (Agenda: report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2003)
June 24	Report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2003 is submitted to the Agency for Cultural Affairs
July 25	viewpoint No. 29 is published
September 13	Arts Administration Seminar 2004: Designated Management System for Local Public Halls and Theaters — Is This A Business
October 1	Opportunity for Private Performing Arts Companies? held in Tokyo Application period for the 2005 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio Awards begins
October 4	Arts Administration Seminar 2004: Riding the Wave of Japanese Cool — The International Strategies of Manga, Anime, and Game held in Tokyo
November 3	Saison Theater Program: Uzume Theater's production of <i>The Night Pot</i> opens at Morishita Studio (till November 6)
November 15	viewpoint No. 30 is published
November 19	Arts Administration Seminar 2004: Learning from the Visual Arts World — The Strategies of the New Generation Gallerists
November 24	Saison Theater Program: Theater Company Rinkogun's production of Philippine Bedtime Stories opens at Morishita Studio (till November 29)
December 17	Application deadline for the 2005 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio Awards

2005	
February 23	Evaluation and Selection Committee meeting for the 2005 Grant and Studio Awards takes place in Tokyo
March 16	Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: proposal of plans and budget for fiscal year 2005; selection of the Board of Trustees members)
	Board of Trustees Meeting in Tokyo (Agenda: proposal of plans and budget for fiscal year 2005; selection of the Board of Directors members)
March 17	Announcement of 2005 Grant and Studio Awards
March 31	Plans and budget for fiscal year 2005 is submitted to the Agency for Cultural Affairs; viewpoint No. 31 is published

December 18 Next Next dance showcase event held at Morishita Studio

## 会計報告

## **Financial Report**

## 収支計算書

2004年4月1日~2005年3月31日 **STATEMENT OF REVENUES AND EXPENSES** 

from April 1, 2004 to March 31, 2005

		単位: 円/in yen	
I 収入の部	REVENUES		
1. 基本財産運用収入	Investment income from endowment	110,596,707	
2. 運用財産運用収入	Investment income from operating funds	101,384,305	
3. 寄付金収入	Contributions	3,950,548	
4. 賃貸収入	Income from lease	11,465,595	
5. その他の収入	Other income	1,764,070	
6. 森下スタジオ修繕取崩収入Transfer income from Morishita Studio repair and refurbishment fund 22,650,			
7. 投資有価証券組入収入	Transfer income from investment stocks and bonds	50,000,000	
当期収入合計	Net Total Revenue	301,811,305	
前期繰越収支差額	Balance brought forward	90,694,282	
収入合計	TOTAL REVENUE	392,505,587	

Ī	支出の部	EXPENSES	
1.	事業費	Program services	145,147,527
	(うち助成事業	Grant programs	69,220,430)
2.	管理費	Management and general	63,868,924
3.	雑支出		44,458
4.	森下スタジオ修繕支出	Morishita Studio repair and refurbishment expenses	22,650,080
5.	日仏舞踊交流基金支出	Disbursement from Japan-France Dance Exchange Program Fund	3,950,548
当	期支出合計	Total expenses	235,661,537
当	期収支差額	FUND BALANCES	66,149,768
次	期繰越収支差額	BALANCE CARRIED FORWARD	156,844,050

単位: 円/in ver

## 貸借対照表

2005年3月31日現在

**BALANCE SHEET as of March 31, 2005** 

		単位: 円/ in yen
資産の部	ASSETS	
1. 流動資産	Current assets	
現金預金	Cash	13,465,719
有価証券	Securities	73,621,067
未収収益等	Accrued revenue	70,803,224
流動資産合計	Total current assets	157,890,010
2. 固定資産	Fixed assets	
基本財産	Endowment	
土地	Land	2,254,915,150
有価証券	Securities	5,104,400,000
基本財産合計	Total endowment fund	7,359,315,150
特定目的資産	Designated fund	292,966,229
その他の固定資産	Other fixed assets	1,837,111,309
固定資産合計	Total fixed assets	9,489,392,688
資産合計	TOTAL ASSETS	9,647,282,698
負債の部	LIABILITIES	
負債合計	TOTAL LIABILITIES	16,285,960
Ⅲ 正味財産の部	NET ASSETS	
正味財産	Net assets	9,630,996,738
(うち基本金	Endowment fund	7,359,315,150)
(うち当期正味財産減少額	Decline of assets	20,737,482)
負債および正味財産合計	TOTAL LIABILITIES AND NET ASSETS	9,647,282,698

## 資金助成の概況 **Summary of Grants** 1987-2004

分野 category	<b>年度</b> year	<b>申請件数</b> number of	助成件数 number of	助成金額(円) grants in yen
category	yeai	applications	grants	grants in yen
現代演劇・舞踊助成				
<b>Contemporary Theater and Dance Pr</b>	ogram Grar	nts		
	1987-00	2,083	478	1,411,278,000
	2001	221	45	96,100,000
	2002	219	45	77,500,000
	2003	147	40	56,000,000
	2004	162	47	54,420,430
	累計 tota	2,832	655	1,695,298,430
非公募助成 Designated Fund Program Grants				
	1987-00		140	594,602,000
	2001		11	22,140,000
	2002		8	21,000,000
	2003		4	13,000,000
	2004		8	14,800,000
	累計 tota	ıl	171	665,542,000
	合計 grar	nd total	826	2,360,840,430

## 2004年度〈現代演劇・舞踊助成〉プログラムの概況

## **Data on Contemporary Theater and Dance Programs in 2004**

	国内プログラム National Programs				国際交流プログラム International Programs			
	創造環境整備 Creative Environment Improvement Programs		芸術創造 Artistic Creativity Enhancement Programs		知的交流 Intellectual Exchange Program	芸術交流 Artistic Exchange Programs		
プログラム programs	ワークショップ、会議・ シンボジウム、研究 Workshops; Conferences and Symposia; and Commissioned Research Projects	アーツマネジメント 留学・研修 Arts Management Study Program 個人研修 Individual Travel Fellowship	芸術創造活動 I Artistic Creativity Enhancement Program I 若手奨励助成 Incentive Aid to Young Artists	芸術創造活動 II Artistic Creativity Enhancement Program II	知的交流活動 Intellectual Exchange Program	I: プロジェクト支援 (スタジオ助成) I: Creative Exchange Program (Studio Awards only)	II: 継続プロジェクト 支援 II: Creative Exchange Program — For Long-Term Projects	合計 Total
申請件数 number of applications	46	2 4	73* 6	7**	4	11	9	162
助成件数 number of awards	23	0	4* 6	6**	2	4	2	47
助成金額(円) grants in yen	15,900,000	0	12,000,000 920,430	18,000,000	1,600,000	_	6,000,000	54,420,430

<sup>\*</sup> うち継続3件 Including three extended grants \*\* うち継続4件 Including four extended grants